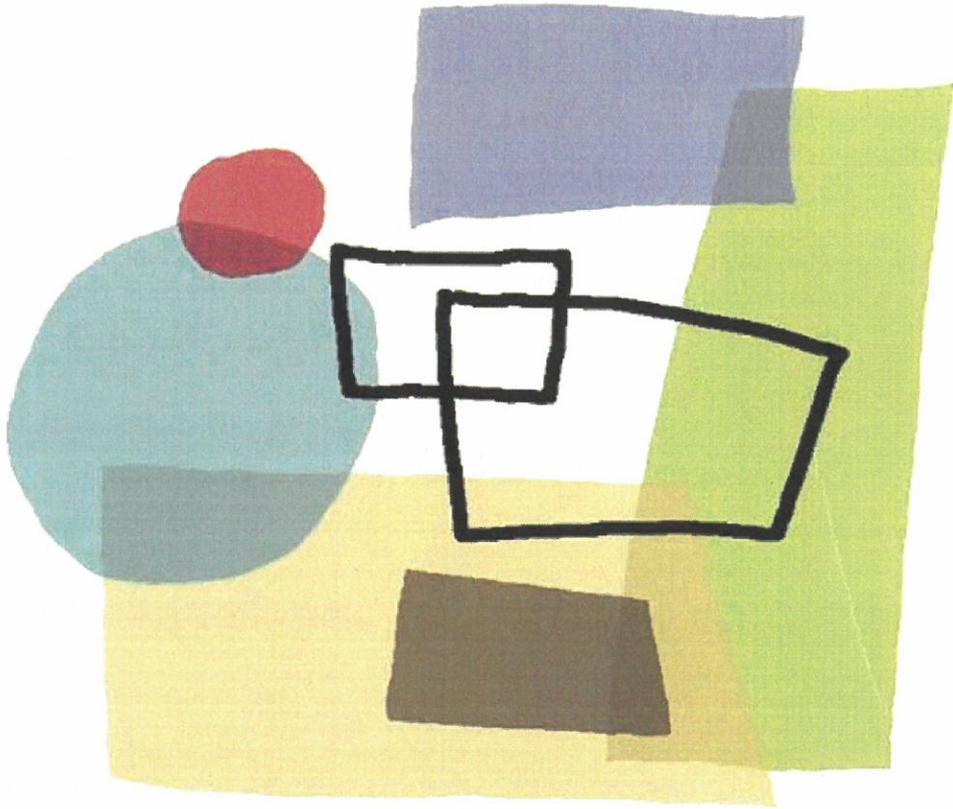


平成29年度

教育委員会の事務に関する点検評価報告書



平成30年3月

田村市教育委員会

目 次

I	はじめに	1
II	事務事業の点検及び評価の目的、実施方針	2
III	主な施策と指標	3
1	教育振興推進プログラムダイジェストI（学校教育課所管事業）	4
	<u>施策1 学校教育の充実（学校教育課）</u>	
(1)	施策目標1-1：「知識・技能や思考力・判断力・表現力、学習意欲等の『確かな学力』を確立します。」	5
	指標1-1A：学力の定着度（全国学力学習状況調査）	5
	指標1-1B：学力の定着度（福島県学力調査）	7
	指標1-1C：学力の定着度（田村市学力実態調査）	9
	指標1-1D：家庭学習の習慣度	10
	指標1-1E：外国語指導助手の派遣実績	12
(2)	施策目標1-2：「規範意識を養い、豊かな心と健やかな体を育成します。」	
	【施策目標1-2①：規範意識を養い、豊かな心を育成します】	
	指標1-2①A：「田村っ子のルール10」の学年別達成度	13
	指標1-2①B：道徳教育指導状況	14
	指標1-2①C：童謡唱歌音楽祭実施状況	15
	指標1-2①D：読書状況	16
	【施策目標1-2②：健やかな体を育成します】	
	指標1-2②A：全国体力・運動能力調査における田村市の状況	17
	指標1-2②B：各校の体力向上推進計画の実施状況	18
	指標1-2②C：小学校水泳大会・陸上大会の参加者数	18
	指標1-2②D：食育に関する研修及び栄養教諭・栄養士の授業支援状況	19
	指標1-2②E：薬物乱用防止教室及び思春期保健教室実施状況	20
	指標1-2②F：放射線教育の実施状況	20
(2)	施策目標1-3：「教員の資質の向上を図るとともに、一人一人の子どもに教員が向き合う環境をつくります。」	21
	指標1-3A：計画訪問等の実施状況	21
	指標1-3B：各学校における服務倫理委員会の開催状況	22
(3)	施策目標4：「施策・事業等の点検・検証を行うとともに、学校の運営体制を支援します。」	23
	指標1-4A：教育振興推進プログラムにかかる各学校の達成状況	23
	指標1-4B：学校関係者評価の実施状況	24
(5)	施策目標1-5：「幼児期における教育を推進します。」	25
	指標1-5A：公立幼稚園共通カリキュラム（5歳児）	25
	指標1-5B：市内公立・私立幼稚園におけるたむらっ子はぐくみステップの達	

成状況	25
指標 1-5C: 市内保育所共通カリキュラム (3歳児)	26
指標 1-5D: 平成28年度田村市小学校入門期指導の手引き	26
(6) 施策目標 1-6: 「特別なニーズに対応した教育を推進します。」	27
指標 1-6A: 特別支援教育にかかる相談、訪問等による支援	27
指標 1-6B: Q-U 検査による学級満足度尺度及び学校生活意欲プロフィール	28
指標 1-6C: 教育相談体制における SC,心の教室相談員の派遣実績	29
2 教育振興推進プログラムダイジェストⅡ (生涯学習課所管事業)	30
<u>施策 2 生涯学習の充実 (生涯学習課)</u>	31
(1) 施策目標 2-1: 「公民館の活性化を図ります。」	31
指標 2-1A: 市民のニーズを捉えた学級講座の企画	31
指標 2-1B: 市民に愛される公民館づくり	31
(2) 施策目標 2-2: 「放課後子ども教室推進事業を推進します。」	31
指標 2-2A: 放課後子ども教室の円滑な運営	31
指標 2-2B: コーディネーター及び指導員の育成と確保	31
指標 2-2C: 放課後子ども教室の周知及び広報	32
(3) 施策目標 2-3: 「学校支援地域本部事業の推進を図ります。」	33
指標 2-3A: 学校支援地域本部事業の推進	33
指標 2-3B: 地域の人材活用体制の整備	33
指標 2-3C: 学校支援地域本部事業の周知及び広報	33
(4) 施策目標 2-4: 「図書館の機能を充実します。」	35
指標 2-4A: 利用促進に向けた図書館の資料及び機能の充実	35
指標 2-4B: 子どもの強く生き抜く力を育むための読書活動の推進	35
指標 2-4C: 図書館事業の周知	35
<u>施策 3 芸術文化活動の推進 (生涯学習課)</u>	37
(1) 施策目標 3-1: 「芸術文化活動の推進を図ります。」	37
指標 3-1A: 芸術文化活動への支援	37
指標 3-1B: 質の高い自主文化事業等の実施	37
<u>施策 4 文化財の保護と継承 (生涯学習課)</u>	38
(1) 施策目標 4-1: 「文化財の保護と継承を推進します。」	38
指標 4-1A: 文化財の保存と継承	38
指標 4-1B: 歴史民俗資料館の活用と文化財資料館の整備	38
<u>施策 5 スポーツ・レクリエーション活動の推進 (生涯学習課)</u>	39
(1) 施策目標 5-1: 「スポーツ振興の推進を図ります。」	39

指標 5-1A : 運動公園内の施設によるスポーツ交流人口の拡大	39
指標 5-1B : 田村富士ロードレース大会への参加者の拡大と推進	39
指標 5-1C : ふくしま駅伝の参加並びに記録への挑戦	39
指標 5-1D : 小中学生を対象としたスポーツ大会・講習会等の開催	39
指標 5-1E : 指導者対象の研修会、講習会の開催	39

3 教育振興推進プログラムダイジェストⅢ（教育総務課所管事業）

施策 6 教育行政の円滑な推進と効率的運営（教育総務課）

(1) 施策目標 6-1 : 「教育委員会の活性化を図ります。」	43
指標 6-1A : 教育委員会の透明性を高める取組	43
指標 6-1B : 教育推進プログラムの重点化と自己評価	45
指標 6-1C : 外部評価委員による評価及び公表	45
(2) 施策目標 6-2 : 「教育環境の整備・充実を進めます。」	45
指標 6-2A : 教育活動の場にふさわしい環境の整備	45
指標 6-2B : 施設の耐震化の推進	45
指標 6-2C : 児童生徒の安全な学校生活のための環境整備	45
指標 6-2D : 児童生徒の通学支援	45
(3) 施策目標 6-3 : 「教育予算を効果的・効率的に執行します。」	46
指標 6-3A : 田村市財政計画をふまえた効率的な予算執行	46
(4) 施策目標 6-4 : 「人材育成を推進します。」	46
指標 6-4A : 奨学制度の効果的な運営	46
指標 6-4B : 海外留学支援制度の周知	46
(5) 施策目標 6-5 : 「教育効果を高めるための学校規模の適正化を進めます。」	47
指標 6-5A : 学校規模の適正化推進	47

IV 外部評価委員より

V 結びに

はじめに

教育委員会では、児童生徒の健全育成にかかわる学校教育はもとより生涯にわたって生きがいをもちよりよい人生を歩むための生涯学習の充実のほか、芸術文化活動の推進や文化財の保護、スポーツの振興など多岐にわたっています。これらの事業内容は、学校教育課、生涯学習課、教育総務課のほか、各地域の公民館等所属機関の職員が一丸となり、事務事業を分担して市民の皆様の負託に応えるべく業務にあたっているところですが、市民の皆様はその成果を周知していただくのは、大変難しいことであると感じております。幼稚園、小・中学校にお子様をお預けいただいている保護者の皆様にはお子様の様子を通して、生涯学習関連にかかわる事業についてはその関わりの中、それぞれご承知いただいている部分もあろうかと思いますが、取組の状況を発信する機会は部分的でありました。

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律」が平成19年に制定され、事務事業の点検・評価並びに公表が義務づけられたことを受け、教育委員会としては、平成20年度から自ら事務事業を点検・評価するとともに外部評価を経て、評価結果を公表して参りました。

制度の制定から11年目にあたり、改めて自らの事務事業をより一層厳しく点検・評価して積極的に公表し、ご批評をいただいた上で改善していく意を強くしたところでありませう。

平成29年度は「田村市教育大綱」の一部改訂を行い、教育委員会と学校との連携を密にするとともに、現場の状況に応じてフレキシブルに対応する体制のもと、実質的な成果が目に見えるように努力を重ねてまいりました。本報告書は、その取組の記録となる側面もあるものと考え、PDCAのマネジメントサイクルが機能するように工夫改善を加えて作成いたしました。市民の皆様には、点検・評価の状況をぜひご覧いただき、忌憚のないご意見をいただきまして、教育委員会の取組がより一層活性化するよう改善を加えて参りたいと考えております。

教育委員会が市民の皆様にとりまして身近な頼りになる存在として感じていただけますよう努力して参りたいと思いますので、今後ともどうぞよろしくお願ひいたします。

平成30年3月

田村市教育委員会教育長職務代理者 増田英子

II 事務事業の点検及び評価の目的、実施方針

1 目的

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条の規定に基づき、田村市教育委員会の事務事業に関する管理及び執行状況について、教育に関する学識経験者の知見を活用して点検及び評価を行い、報告書を作成して議会に提出するとともに公表する。

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 実施方針

- (1) 田村市教育委員会は、田村市教育大綱に示された事務事業について点検・評価結果をまとめる。
- (2) 田村市教育委員会は、田村市教育委員会外部評価委員会設置要綱に基づき、教育に関する学識経験者3名に外部評価委員を委嘱し、田村市教育委員会外部評価委員会を設置する。（以下、外部評価委員会という）
- (3) 外部評価委員会は、田村市教育委員会が行う事務事業についての点検及び評価（内部評価）について、意見を述べ、評価を行う。（外部評価）
- (4) 田村市教育委員会は、内部評価並びに外部評価について報告書を作成し、議会に提出するとともに公表する。

～ Ⅲ 主な施策と指標 ～

1 学校教育の充実

地域が育て 地域で育つ市民参加の教育

■は今年度重点施策

① 知識・技能や思考力・判断力・表現力、学習意欲等の「確かな学力」を確立します。

- (1) 学力向上の支援
- 活用力を育成する授業の充実
 - 言語活動を充実する学習過程の工夫
 - 授業改善チェックシートの計画的活用
 - 定着確認シートの活用
 - 学習規律、学習習慣の確立
 - 授業での学習規律の定着と学び方の指導
 - 保護者シラバス・プログレスの推進
 - 家庭学習の点検と定着
 - 幼・小・中・高連携による取組
 - 連携推進会議
 - 小・中連携(中学校区) ○中・高連携
 - 幼・中9年間をつなぐカリキュラム
 - 幼小中連携推進ステップアップ支援事業
 - 小学生サマースクール「先輩と学ぼう」
 - 学力実態調査の結果分析と活用
 - 田村市学力調査(NRT、中学生新入生)
 - 全国調査、福島県調査
- (2) 英語が使える人材育成
- 国際社会に対応した教育の体系的な実践
 - 小学生英語活動集中プログラム
 - 小学校英語活動充実のためのALT派遣
 - 中学生夏季英語研修
 - 中学生海外派遣研修事業
 - 各中学校専任のALT派遣

③ 教職員の資質の向上を図ります。

- (1) 教職員の指導力の向上
- 学力向上推進会議の充実
 - 学力向上推進会議
 - 学力向上推進委員・学校教育指導委員の研修
 - 市全体及び中学校区単位の授業研究会
 - 授業改善のための定着確認シート活用研究
 - 各種研修会の充実
 - 転入教職員研修会 ○講師研修
 - 小学校英語担当者B・H研修
 - 小・中英語担当者とALTの合同研修
 - いじめ・不登校対策研修会
 - 食育推進コーディネーター・学校栄養職員研修
 - 養護教諭研修会○幼稚園教諭等研修会
 - 情報モル指導者研修会
 - 中学校武道充実のための講師派遣
 - 計画訪問等による授業力向上の支援
 - 指導訪問・要請訪問
 - 校内研修等への支援
 - 日常的な授業改善への支援
 - 授業改善チェックシートの計画的活用(再)
 - 学力向上だより・指導資料の配付
 - 教育の情報化対応の充実
 - ICT機器の有効活用に関する研修
 - 情報モル教育の充実と保護者への啓発
- (2) 服務・倫理の確立
- 教職員の不祥事根絶と勤務の適性化
 - 校内相談体制の構築
 - 体罰・セハラ絶無のための研修
 - 教職員の勤務実態の適正化と健康増進

② 規範意識を養い、豊かな心と健やかな体を育成します。

- (1) 道徳教育の充実
- 「田村っ子のルール10」の実践
 - 道徳教育推進教師を中心とした指導体制の充実
 - 道徳の時間の充実
 - 「心の教育」資料集の活用
 - 地域人材の積極的活用
 - 国、県資料の活用
 - 道徳的実践力の育成
- (2) 体位・体力の向上の支援
- 体育の授業と体育的行事の充実
 - 「運動身体づくりプログラム」の実践
 - 業間等を利用した運動の推進
 - 体力・運動能力等調査の結果分析と活用
 - 小学校水泳・陸上大会の実施
- (3) 健康教育の推進
- 食育に関する研修や授業の充実
 - 健康教育に関する指導の充実
 - 薬物乱用防止教室等の開催
 - 歯科保健教室、思春期保健教室の開催
 - 放射線教育の推進
- (4) キャリア教育の推進
- 9年間を見通したキャリア教育の充実
 - 勤労・職業体験活動の充実
- (5) 特色ある教育活動の推進
- 伝統や文化に関する教育の充実
 - 伝統文化学習担当会
 - 童謡・唱歌音楽祭 ○立志式
 - 読書活動推進計画の作成と実践
 - 読書習慣づくり
 - 学校図書室の整備・充実
 - 市図書館データベースの活用
 - 防災教育の推進
 - 環境教育と学校緑化の推進
 - 人権教育の充実とJRC活動の推進

④ 施策の点検・検証を行うとともに、学校の運営体制を支援します。

- (1) 施策・事業等の評価
- 教育振興推進プログラムの着実な実践と評価
 - 教育実践成果の積極的な公表
 - 教育実践報告会の開催
 - 教育委員会ホームページ等による広報活動の充実
- (2) 開かれた学校づくり
- 教育活動の積極的な公開
 - 学校だよりの発行
 - ホームページ活用等による情報発信
 - 学校へ行く週間の実施
 - 学校評価による学校運営の充実
 - 学校評議員の委嘱と学校運営への参加
 - 学校評価の公表と学校関係者評価の充実
- (3) 地域教育力の活性化
- 地域ボランティアの積極的活用
 - 学校支援地域本部事業との連携
 - 小学生サマースクール(再)
 - 田村市の教育10のキーワード

⑤ 幼児期における教育を推進します。

- (1) 保・幼・小の連携強化
- 保幼小連携による幼児教育の推進
 - 「田村市公立幼稚園共通カリキュラム」
 - 「たむらっ子はくくみステップ」の実践
 - 保・幼一元化に基づく教育の充実
 - 小学校入門期指導の充実
- (2) 幼児教育の保護者負担の軽減
- 市立幼稚園の保護者負担金の無料化

⑥ 一人ひとりのニーズに対応した教育を推進します。

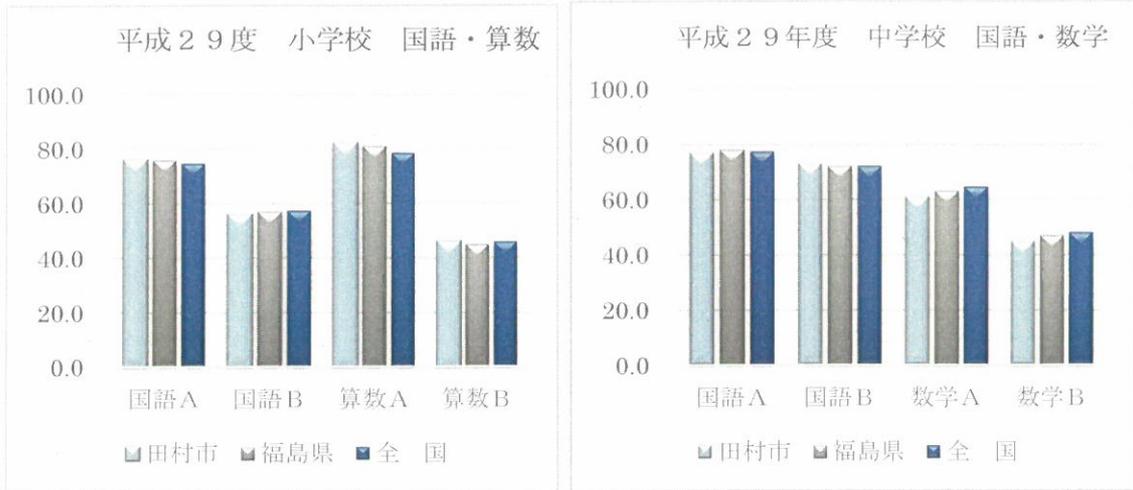
- (1) 特別支援教育の充実
- 特別支援教育支援員の配置と研修 □特別支援教育コーディネーター研修の充実
 - 通級指導教室の開設と充実 □「すくすく教室」と連携した就学相談の充実
 - 関係機関との連携による「サボネット田村」運営の充実
 - サボネットファイルの活用 ○研修・啓発セミナー等の実施
- (2) 個や学校のニーズに対応した教育の推進
- 学習機会の提供
 - 小学生サマースクール(再) ○長期休業中等による自主学習指導支援
 - 復興支援：田村っ子の元気を支援する事業
- (3) 学校への適応指導の充実(いじめ・不登校防止等への対策)
- 適応指導の充実
 - 学級生活満足度調査(Q-U調査)の実施と活用(小3～中3)
 - 小・小連携、小・中連携による交流事業 ○導入期(異校種の接続)指導の充実
 - いじめ、不登校への迅速で適切な対応
 - 市いじめ防止等に関する条例に基づく体制の整備(いじめ問題対策委員会等)
 - 心の教室相談員の中学校配置と小学校派遣 ○OSC,SSW派遣事業の活用
 - 「ほっとスペース」(ボランティアによるフリースクール)との連携
- (4) 学校の危機管理体制の充実
- アレルギー、感染症への対応
 - 学校給食食物アレルギー対応体制の確立 ○感染症への対応体制の確立
 - 非常時情報伝達体制整備
 - 緊急時メールシステム ○災害時対応マニュアルの整備と周知

【田村市の教育10のキーワード】

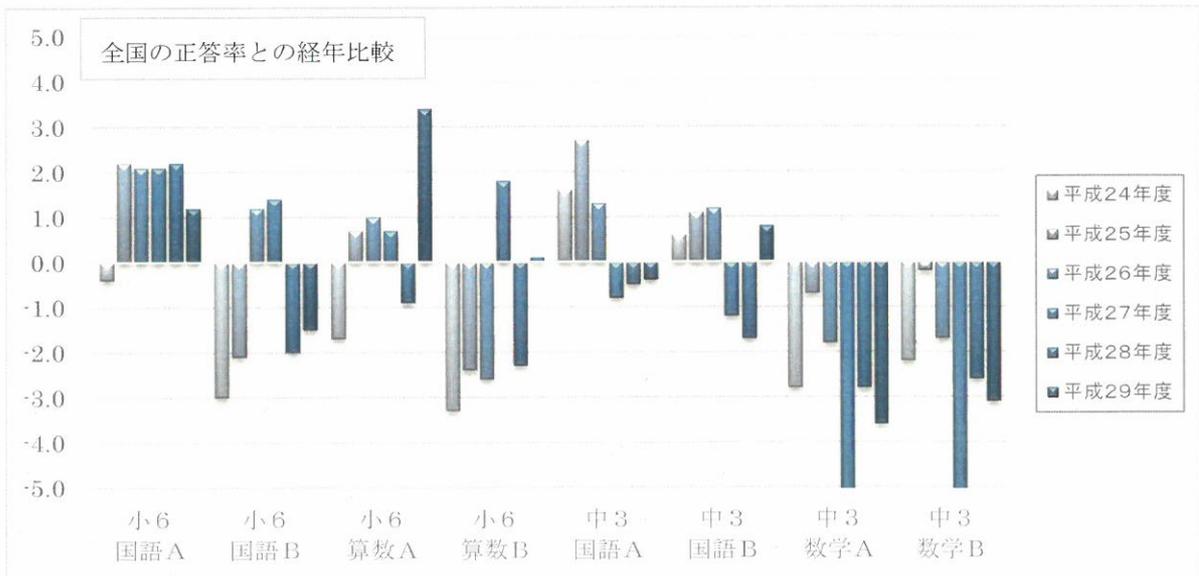
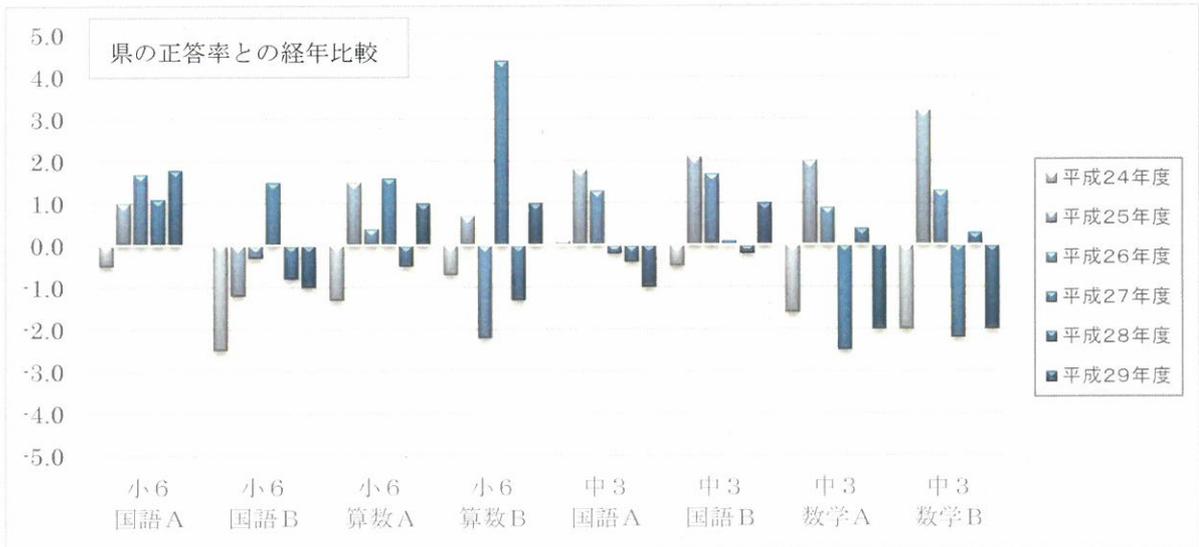
- ①安全・安心(危機管理)
- ②共生と連携と評価の時代(教育の道しるべ)
- ③実践と点検・検証(教育活動の原理原則)
- ④真実は相手が理解してはじめて真実になる(説明責任・結果責任)
- ⑤心身を養えば学力は伸びる(知・徳・体のとらえ)
- ⑥基礎・基本(学力向上の基盤)
- ⑦当たり前のことを当たり前にして当たり前に行動する(行動基準)
- ⑧感動と共感と感化(情操の育成)
- ⑨愛郷心(語り継ぐ田村の教えと郷土への誇り)
- ⑩市民参加の教育づくり(地域連携の強化と地域教育力の向上)

参考：施策指標の達成状況

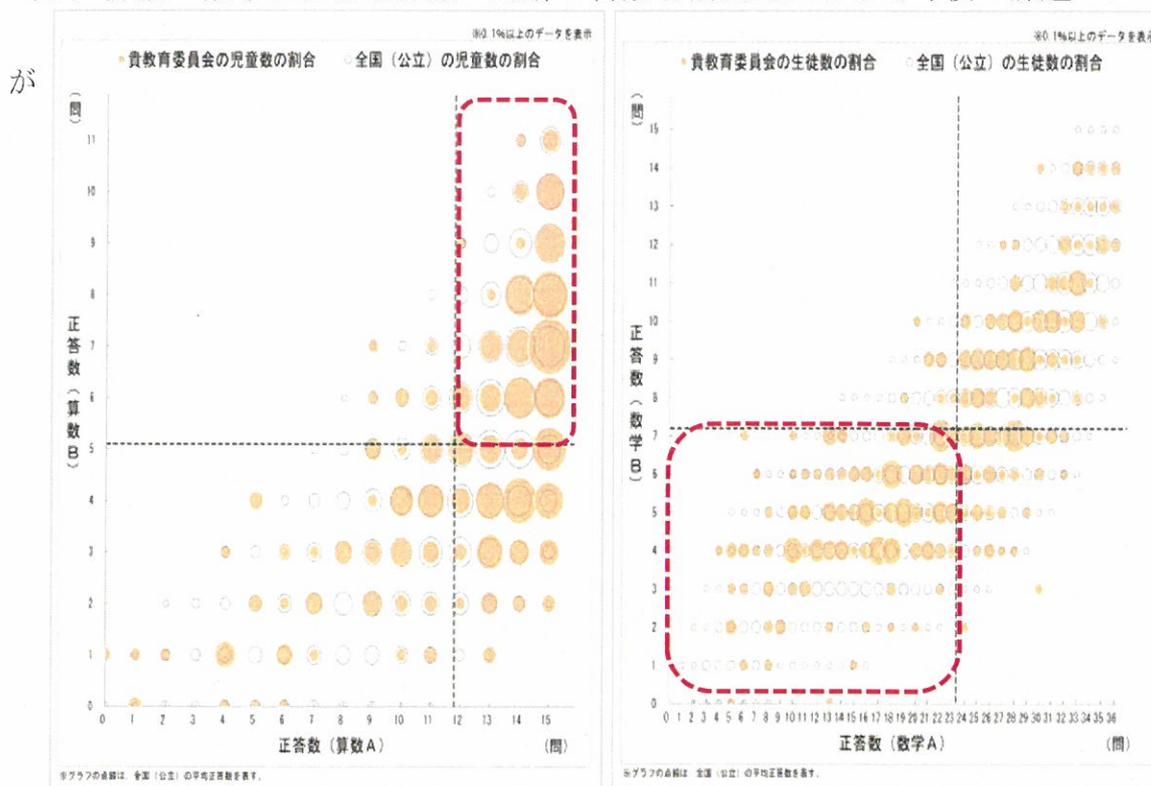
【指標1-1A】学力の定着度 全国学力学習状況調査（小6・中3 4月実施）
 (1) 平均正答率（%）による福島県平均・全国平均との比較



(2) 福島県平均正答率及び全国平均正答率との経年比較



(2) 算数・数学における知識・理解の習熟と活用力における今後の課題



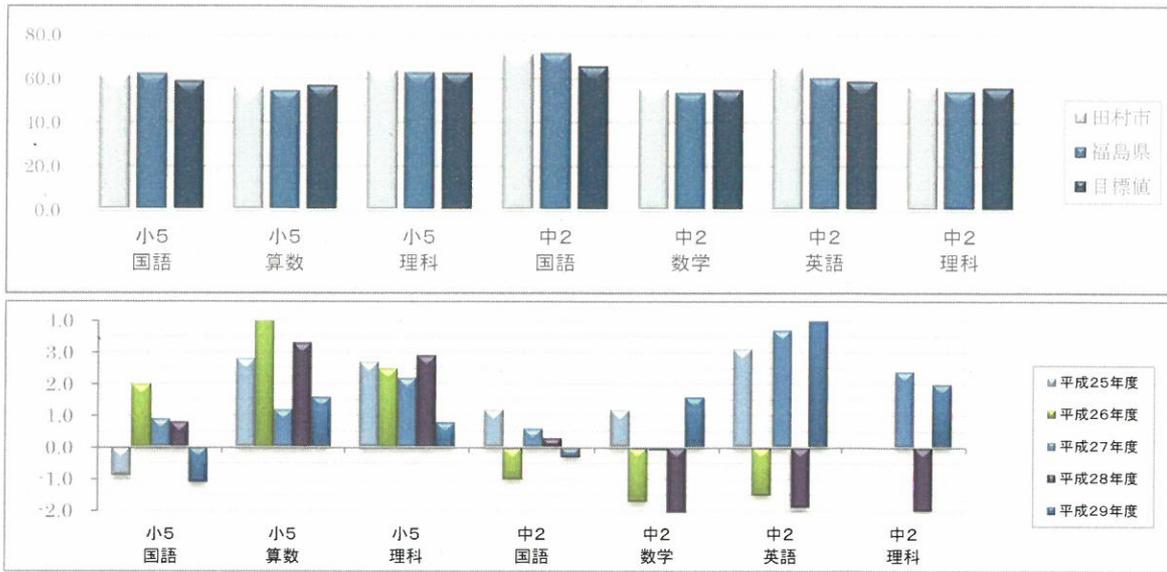
上記、バブルチャートは、本市における算数・数学の習熟と活用の相関を表わしたグラフである。小学校においては、「知識・理解」(A問題)「活用力」(B問題)とも全国平均を上回っている児童の割合が多いが、中学校においては、「知識・理解」(A問題)「活用力」(B問題)ともに全国平均未満の生徒の割合が多い。

〈考 察〉

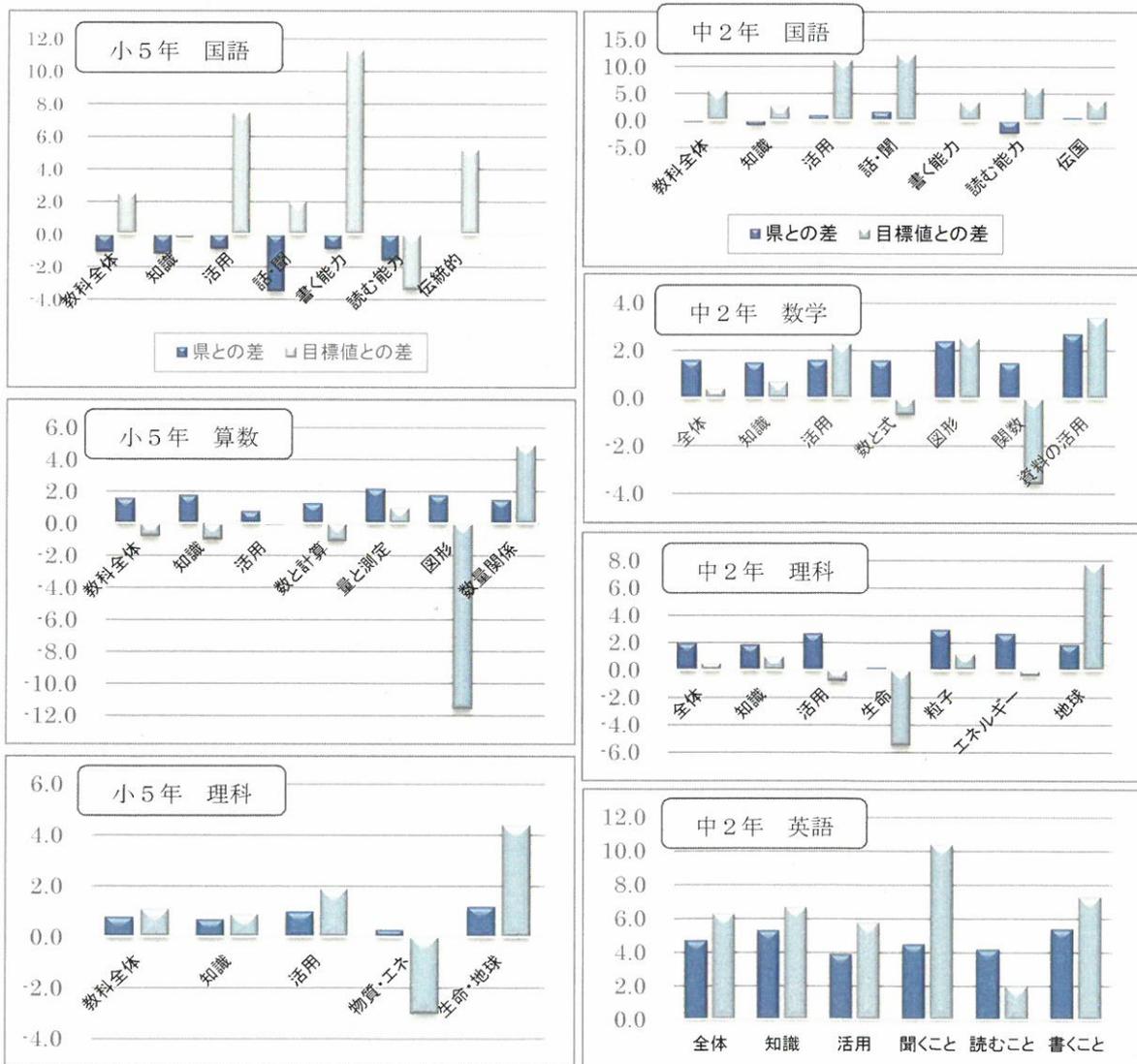
- 各教科の正答率は、県や全国の平均正答率とほぼ同様の傾向を示し、依然として各教科において、「B：活用」の正答率が課題である。
- 全国の平均正答率との経年比較では小学校の算数で改善が見られたが、中学校の数学では「知識・理解」「活用力」ともに課題が残っている。
- 今後、知識・技能のより確実な習得、それらを活用して課題を解決する思考力・判断力・表現力等の育成、学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的・対話的に取り組む態度を育てるための指導力の向上が必要である。
- 特に、思考力・判断力・表現力等を育成する過程で、基礎的な知識・技能の習熟を図る授業のあり方や「わかる・できる授業」の実現に向けた授業改善になお一層取り組む必要がある。

【指標1-1B】学力の定着度 福島県学力調査 (小5・中2 11月実施)

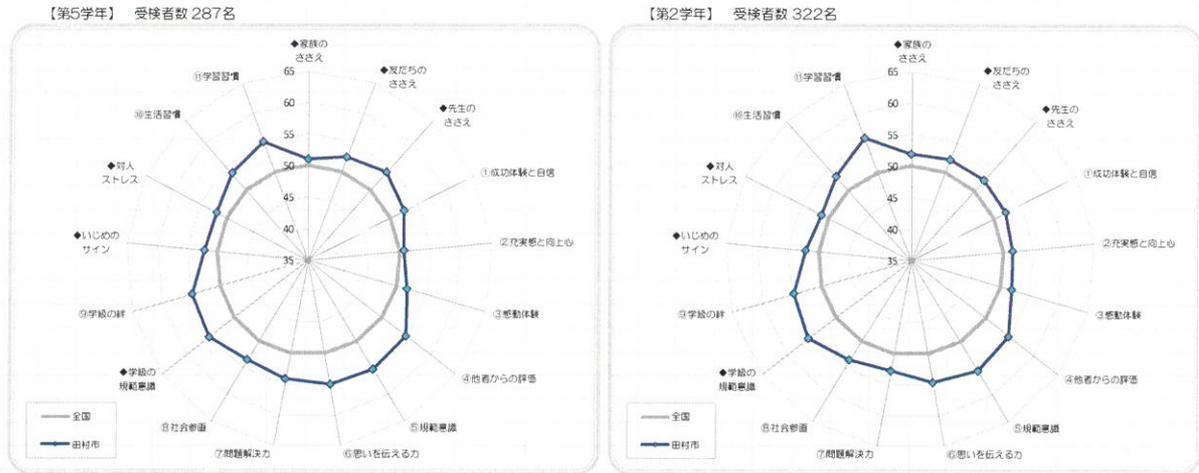
(1) 福島県平均正答率との比較および経年比較



(2) 各教科の知識・活用の枠組み、領域における県平均との差



(3) 生活・学習意識調査における県平均を標準とした際の田村市の状況



〈考 察〉

【国語】

- ① 小中学校ともに、目標値を上回ることができた。
- ② 小学校においては、知識および活用ともに県平均を下回る結果となった。
- ③ 小学校における「話す・聞く」および「読む能力」に課題がみられる。

【算数・数学】

- ① 小中学校とも、県平均を上回り、前年度と比べて改善傾向がみられる。
- ② 県平均は上回っているが、目標値との比較では下回っており、特に小学校において課題がある。
- ③ 目標値との比較でみると、小学校では「図形」、中学校では「関数」に特に課題があり、重点化した取り組みが必要である。

【理科】

- ① 小中学校とも、知識・活用ともに県平均を上回った。
- ② 目標値との比較では、中学校において活用に課題がみられる。
- ③ 領域別では、「地球」では目標値を大きく上回ったが、「生命」に課題がある。

【英語】

- ① 「知識・活用の枠組み」において、すべて県平均、目標値を上回っている。
- ② 領域別にみても、すべての領域で県平均・目標値を上回っている。

【生活・学習意識調査】

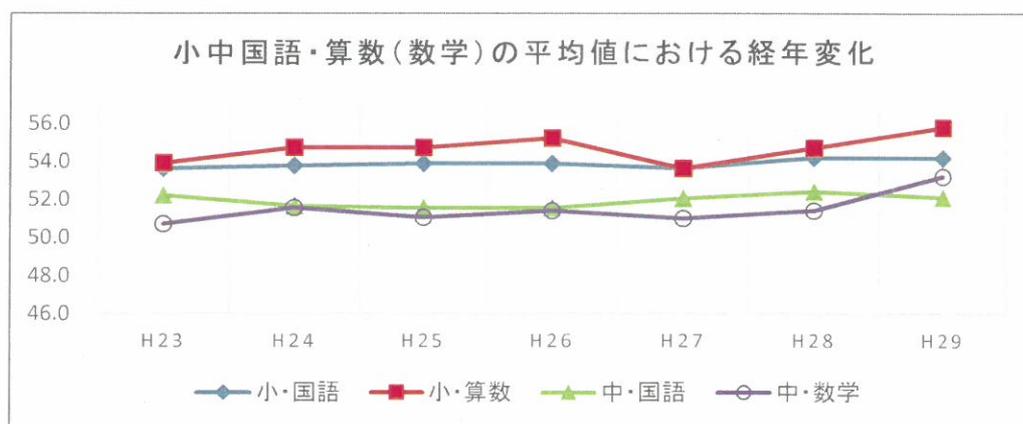
- 小学校・中学校とも同じような傾向がみられ、規範意識が高く、学習習慣において、肯定的な意識がある。
- 学級の絆や学級内での規範意識を大切にしており、秩序ある親和的な学級が多い。
- 昨年度同様、家族の支えを欲している状況があり、充実感と向上心や自尊心

情に関する質問で肯定的状況が低い傾向が見られる。

- 対人ストレスやいじめに関する項目で、県平均を上回ってはいるが、市全体の中では低い傾向を示していることから、人間関係の構築や仲間づくり等の面で今後留意していく必要がある。また、まわりに自分がどう見られているか意識する傾向がある。

【指標 1-1C】 学力の定着度 田村市学力実態調査
(教研式全国標準学力検査) (小1～中2 1月実施)

(1) 平均偏差値の推移



【小学校】 国語±0 算数+1.2 【中学校】 国語-0.3 数学+1.8

(2) 目標達成率 (平均偏差値より)

- ① 平成33年度達成目標値
小学校 国語・算数 56.5
中学校 国語・数学 54
- ② 平成29年度目標達成率

	小1	小2	小3	小4	小5	小6	小・平均	中1	中2	中・平均
国語	53.0	55.1	54.2	55.1	53.3	54.3	54.2	51.9	52.3	52.1
	達成率 95.9%							達成率 96.5%		
算数 数学	53.8	54.9	55.2	57.1	57.5	56.1	55.8	52.2	54.2	53.2
	達成率 98.7%							達成率 98.5%		

※ 達成率は平成33年度目標 小学校 (56.5) 中学校 (54.0) に対する達成率を示す。

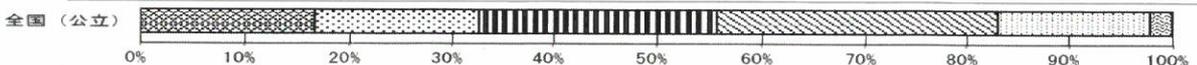
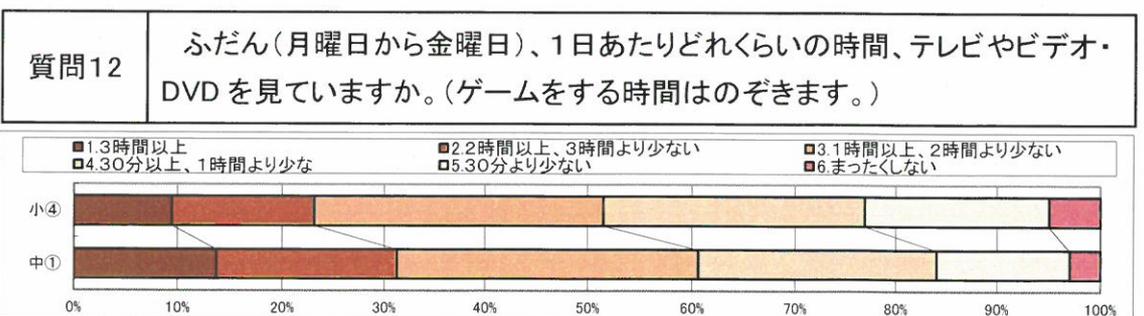
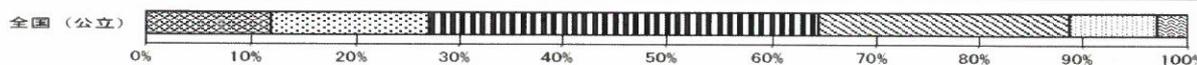
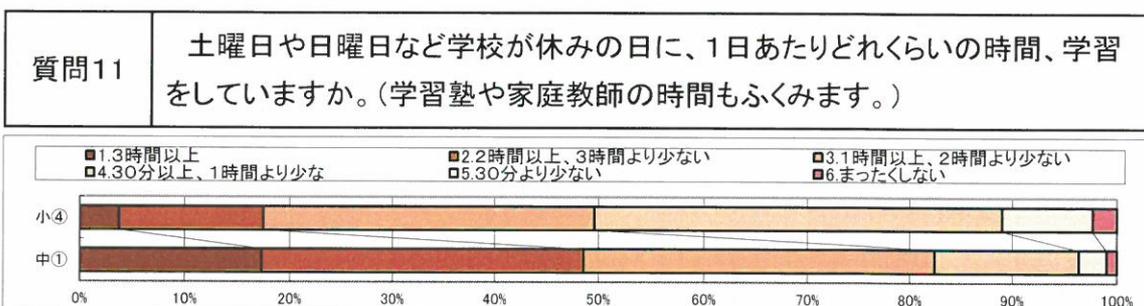
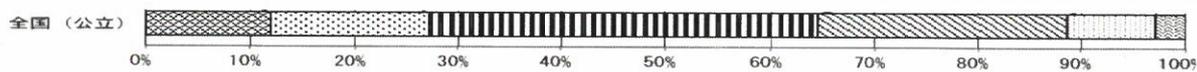
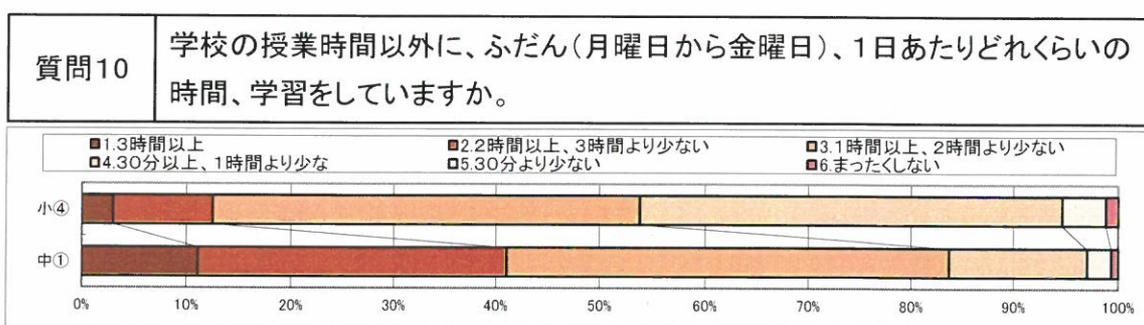
〈考 察〉

- 小中学校とも、算数・数学において、前年度比で上昇した。
- 福島県学力調査 (小5)、全国学力量習状況調査 (小6) の結果を受け、算数・数学科における教員の指導力向上、授業改善に取り組んできた成果が表れてきており、達成率も98%を超えてきた。

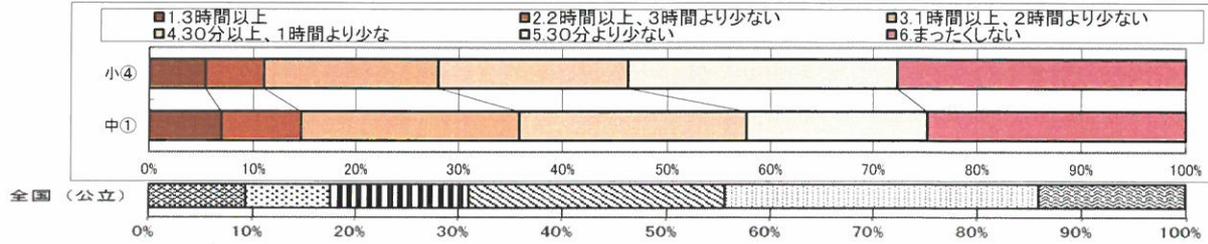
- 小学校では、国語、算数とも、すべての領域、観点で全国平均を上回っている。ただし、小領域でみると、小1国語・算数、小2国語、小3国語・算数、小4国語で下回っている内容もある。
- 中学校国語では、「話題をとらえ話し合うこと」や「語句や表現技法についての理解」に、中学校数学では「空間図形」に特に課題がみられる。
- 算数・数学科の学力向上の取り組みを継続するとともに、各学校や学年の実態に応じた学習内容の補充が必要である。

【指標 1-1D】 家庭学習の定着度(田村市「学びの習慣作り事業アンケート」
(小4・中1 5・1月実施)

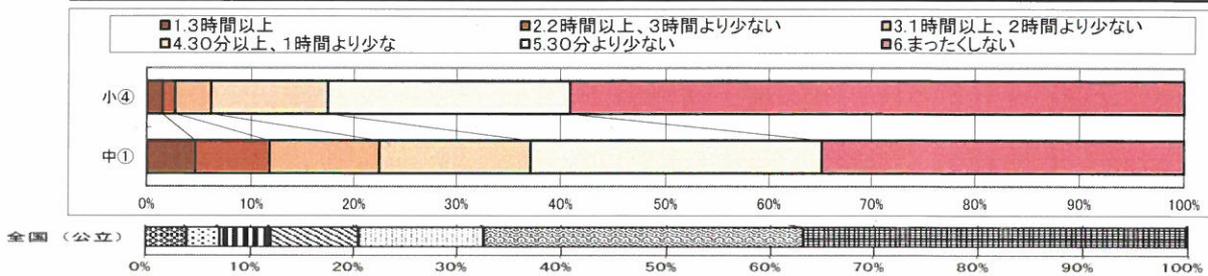
※ 全国のデータは、小学6年 全国学力・学習状況調査<児童質問紙>より



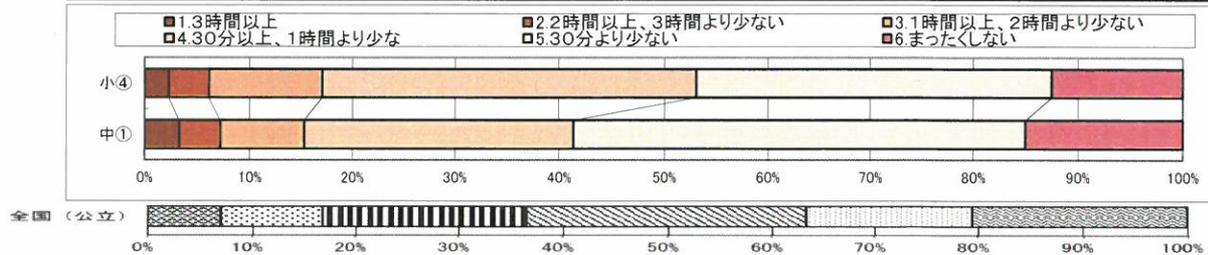
質問13 ふだん(月曜日から金曜日)、1日あたりどれくらいの時間、テレビゲームをしますか。(コンピュータのゲーム、DSやプレステなどの携帯式のゲーム、携帯電話やスマホのゲームをふくみます。)



質問14 ふだん(月曜日から金曜日)、1日あたり、どれくらいの時間、メールやライン、インターネットをしますか。(ゲームをする時間はのぞきます。)



質問16 家や図書館で、ふだん(月曜日から金曜日)、1日あたりどれくらいの時間、読書をしますか。(教科書や参考書、雑誌はのぞきます。)



〈考 察〉

- 月曜日から金曜日までの家庭学習時間において、「30分より少ない」「まったくしない」が全国平均より少ない。
- メールやライン、インターネットの利用時間については、全国よりも少ないが、中学生になると増える傾向があるので、機器の所有を含めて家庭と連携した指導が必要である。
- 読書については、「まったく読書をしない」割合は、全国に比べて少ないが、積極的に読書に親しむ児童生徒の割合も少ないので、積極的に推進していく必要がある。

【指標 1 - 1 E】 外国語指導助手の派遣実績 (単位：回)

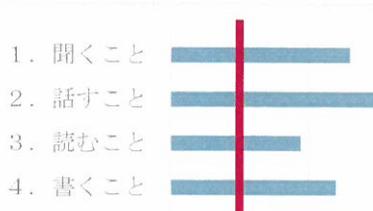
学 校 名	H 2 9	学 校 名	H 2 9
滝根小	4 1	滝根中	1 6 2
大越小	4 1	大越中	1 6 1
都路小	2 3	都路中	1 1 9
関本小	2 0	常葉中	1 6 2
常葉小	2 1	船引南中	1 2 6
西向小	2 2	船引中	5 1 9
芦沢小	1 9	移中	1 2 8
船引南小	2 0	合 計	1 3 7 7
船引小	6 0	英語活動集中プログラム	
美山小	2 5	10月17日 常葉・都路中学校区小学校 (常葉公民館)	
緑 小	1 9	船引南・移中学校区小学校 (芦沢小学校)	
瀬川小	2 0	10月19日 船引中学校区 (船引小学校)	
要田小	2 5	10月24日 滝根・大越中学校小学校 (大越小学校)	
合 計	3 5 6		

田村市学力実態調査における全国との比較

〈中学校 1年 領域別〉



〈中学校 2年 領域別〉



〈中学校 (1・2年) 平均 経年変化〉



〈考 察〉

- 田村市学力実態調査においては、中学校英語における「聞くこと」「読むこと」の領域を中心に全国平均を超える結果となっている。小・中学校における英語指導助手のチームティーチングによる授業が充実してきている結果であると考えられる。
- 小学校1年生から、英語指導助手とふれあいながら外国語にふれる活動を実施することにより、英語でのコミュニケーションの楽しさを味わう活動の充実が図られた。



【指標1-2①A】「田村っ子ルール10」の学年別到達度

[「田村っ子ルール10」アンケート調査結果]

8割以上達成しているもの

調査年月:平成30年1月

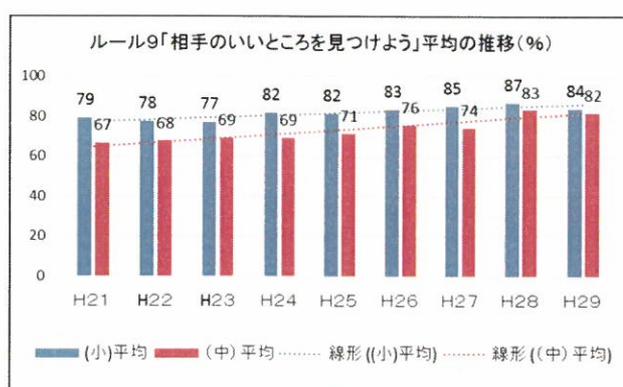
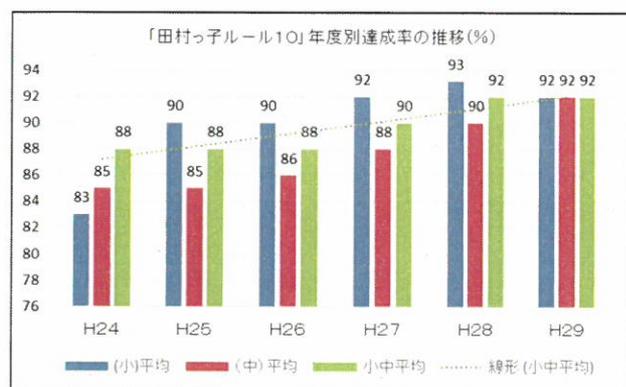
(単位:%)

ルール10	小学校								中学校					小中計	
	小1	小2	小3	小4	小5	小6	平均	前年比	中1	中2	中3	平均	前年比	平均	前年比
あいさつをしよう	95	96	98	97	98	97	97	-1	97	99	99	98	0	98	0
はっきりとした声 で返事をしよう	95	92	91	95	95	87	93	-1	88	88	90	89	4	91	1
「ありがとう」と 言おう	97	96	95	98	98	92	96	0	96	96	99	97	1	97	0
素直にあやまろう	95	92	93	95	94	95	94	0	93	91	97	94	1	94	0
きちんとかたづけ よう	93	93	90	92	92	92	92	-1	87	86	93	89	1	90	1
うそはつかない	88	95	90	94	91	91	92	0	91	89	96	92	3	92	1
相手の目を見て話 そう	96	95	89	94	93	87	92	-1	87	89	91	89	3	91	1
時間を守ろう	92	90	95	94	95	90	93	0	93	94	97	95	2	94	1
相手のいいところ を見つけよう	86	87	80	85	86	80	84	-3	81	79	86	82	-1	83	-2
はきものをそろえ よう	90	93	89	91	94	97	92	-1	92	96	97	95	1	94	0
8割以上達成した 「ルール」の数	10	10	10	10	10	10	10		10	9	10	10		10	
(昨年比)	0	0	0	0	0	0	0		0	0	0	0		0	

【参考】「田村っ子ルール10」経年変化

(1) 達成率の推移

(2) ルール9「相手のいいところを見つけよう」



<考察>

- 「田村っ子ルール10」の達成状況は、小学校、中学校ともに年々向上している傾向にあり、90%を超えるようになってきている。昨年度比較においては、特に中学校における各項目での向上が顕著となった。課題となっている「相手のいいところを見つけよう」も向上傾向にある。
- 今後も各学校における効果のあった取組を継続するとともに、児童生徒の定着状況を把握した個別の指導や、別葉を生かした道徳教育など各種教育との関連を明確にし、教育活動全体を通して計画的に指導を行うことが必要である。

【指標 1 - 2 ① B】 道徳教育指導状況 [福島県道徳教育実施状況調査]

H29年12月

1 福島県ふくしま道徳教育資料集（第Ⅰ集「生きぬく・いのち」、第Ⅱ集「敬愛・つながる思い」、第Ⅲ集「郷土愛・ふくしまの未来へ」）の活用状況

活用状況	小学校数	中学校数
・全学年で活用した。	9	4
・一部の学年で活用した。	2	3
・これから活用する予定である。	2	0
・活用する予定はない。	0	0

活用率 100%

2 道徳の授業参観（公開授業・保護者向け授業参観）について（学校数）

授業参観の実施状況	小学校数	中学校数
・実施した（1学級のみの実施も含む）	12	6
・今年度中に実施する予定である。	1	1
・実施する予定はない。	0	0
・その他	0	0

実施率 100%

3 道徳教育全体計画の「別葉」（様式は任意）について（学校数）

「別葉」の作成状況	小学校数	中学校数
・作成している。	13	7
・今年度中に作成する予定である。	0	0
・作成する予定はない。	0	0
・その他	0	0

作成率 100%

〈考察〉

- 全ての学校でふくしま道徳教育資料集を活用した授業が実施された。私たちの道徳や心の教育指導事例集の活用と併せ、道徳教育の充実が図られている。
- 保護者に対し、道徳教育の重要性及び学校の取組の理解を得るため、授業参観等での道徳の時間の公開を積極的に行っている。
- 道徳教育全体計画別葉（指導内容についての他領域との関連表）は全ての学校で作成してある。改善を加えながら効果的に活用するよう指導助言してきた。
- 平成30年度（小学校）及び平成31年度（中学校）からの道徳の教科化に向けて、指導方法や評価について情報提供及び指導助言をしていく。

【指標 1 - 2 ① C】童謡唱歌音楽祭実施状況

平成 29 年 1 月 16 日 (木)
於 ; 田村市文化センター

参加者 各小学校 4 年生児童 296 名
(都路小、芦沢小、緑小、瀬川小要田小は 3 年生も含む)

来場者

来賓	議会関係	7 名
	外部評価委員	1 名
	PTA 会長	6 名
	中学校長	7 名
	他	7 名
	高齢者学級	72 名
		(滝根 17・常葉 10・都路 31・大越 14)
	保護者・一般	209 名
講師	民話の会	2 名
主催者		6 名
		(市長、副市長・教育長職務代理・教育委員等)
その他		約 40 名 (引率教師・実行委員・事務局等)

合 計 653 名

〈一般参加者・保護者の感想〉

- ・子供の頃にお習いした歌が、こうして今も大切に歌い継がれていることにとっても感動しました。街中に子供達の声が聞こえなくなって久しいですが、開演前、緞帳があがる前の子供たちのざわめきさえ、胸が熱くなりました。(70 代女性)
- ・むかしから、聞きなじみのある歌を、子供たちの澄んだ歌声で聞くことができ、とても感動しております。真剣なまなざしで指揮を見つめる姿、心が洗われるような気がしました。(50 代女性)
- ・これからも地域の宝である子どもたちが、すくすくと育ってくれることを願っています。本当によい歌声を聴いて幸せでした。(50 代女性)
- ・見ごたえのあるものだったと思います。自分の子供たち抜きでも見に来たいと思うほどでした。(30 代女性)
- ・毎年きれいなハーモニーの歌を聞かせてくれてありがとうございます。また来年楽しみにしています。(70 代女性)

〈考 察〉

- 児童生徒にとって、日本の伝統文化にふれると同時に、日常の音楽学習の成果を発表する機会となっている。また、市民にとっても小学生の歌声を聞くことができる機会となっている。
- 平成 30 年度については、新学習指導要領への移行や外国語活動等の授業時数確保並びに児童数の減少による学校規模の差や実施に向けた新たな教育課題への対応が求められており、実施については難しい状況である。

【指標1-2①D】 読書状況

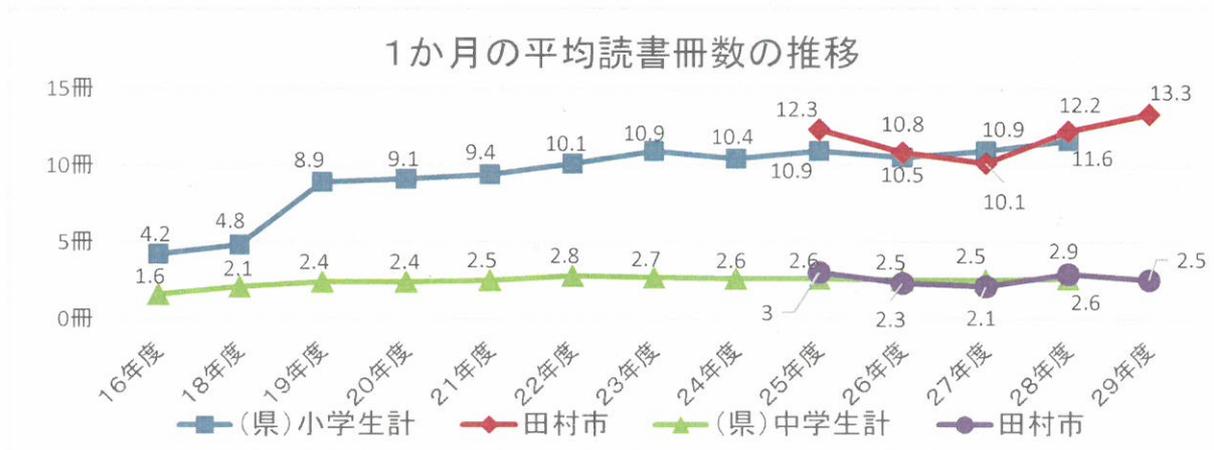
1 福島県読書に関する調査（小1～中3 11月調査）

(1) 学校図書館の利用促進(貸出目標)目標値及び参考値としての平成28・29年度読書に関する調査結果

項目		目標値 (平成31年度)	参考数値(1か月の読書冊数)	
			平成28年11月	平成29年11月
学校図書館の 利用促進(貸 出目標)	小学校低学年	年40冊以上/人	19.5冊/人	19.0冊/人
	小学校中学年	年30冊以上/人	9.8冊/人	12.4冊/人
	小学校高学年	年20冊以上/人	7.4冊/人	8.8冊/人
	中学生	年10冊以上/人	2.9冊/人	2.5冊/人
		平均	9.9冊/人	10.7冊/人

(一か月に児童生徒一人当たりが読んだ本の冊数市平均値)

(2) 読書に関する調査結果経年変化

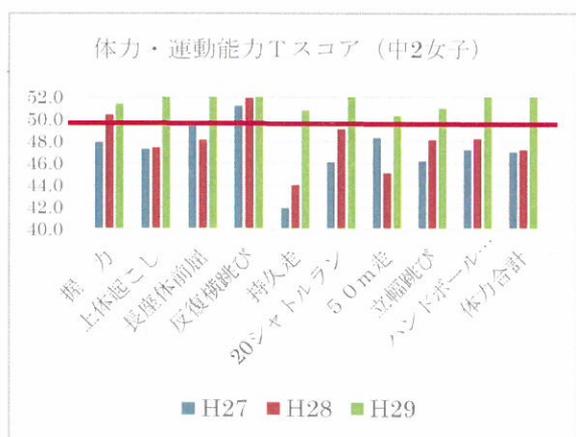
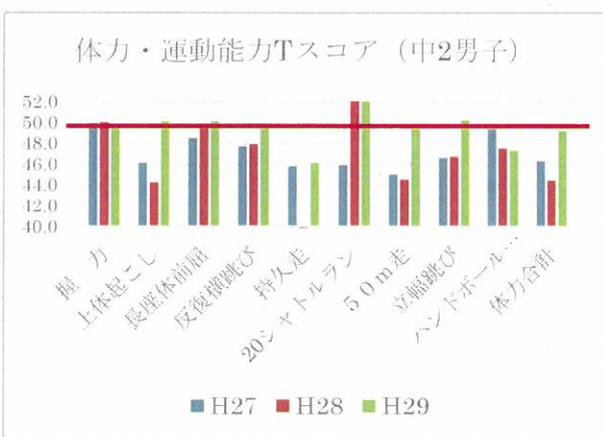
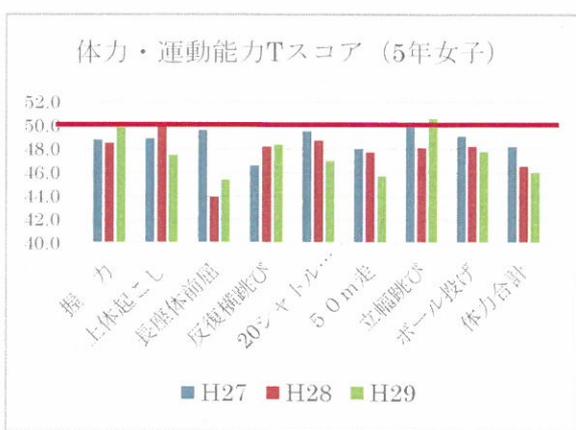
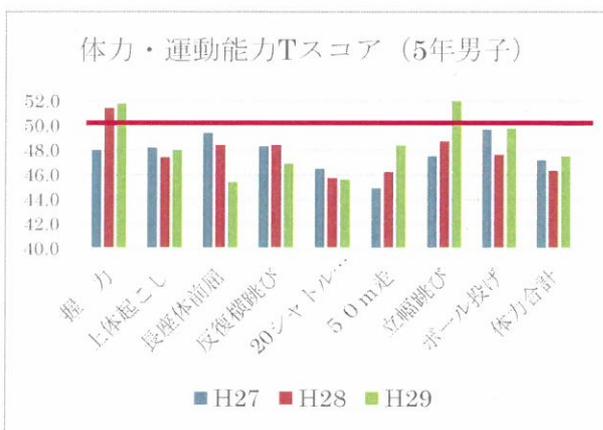
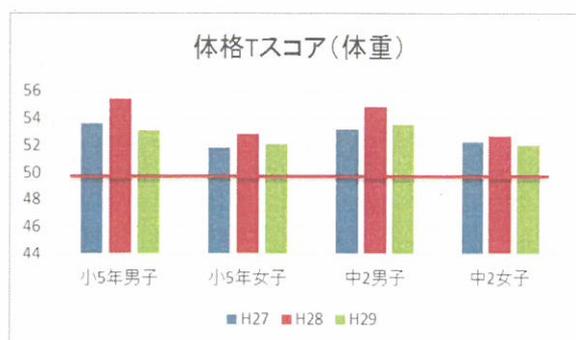
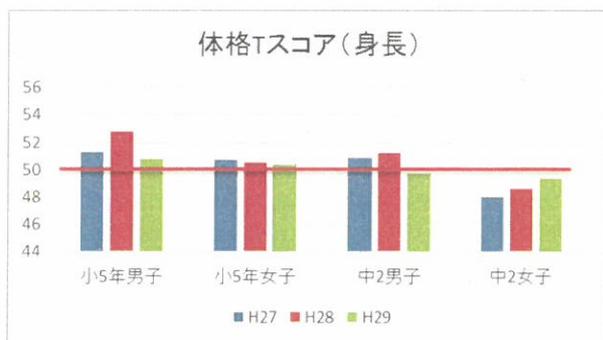


※各学校における小学校1～6年生、中学校1～3年生の平均を算出

〈考 察〉

- 各学校において朝の読書や親子読書、家庭読書の日等の実践により、本を読む機会を意図的に設定し、読書推進を進めている。
- 小中学生一人あたりの一か月平均冊数は10.7冊であり、昨年度比0.8冊増である。また、これを1年間の読書冊数に換算すると128冊となり、増加傾向である。
- 国語における単元を貫く言語活動との関連から並行読書による比べ読みやブックトーク等の多様な読書活動を取り入れた読書指導を展開することで、読書の質の向上や興味関心の醸成に努めている。
- 学校図書支援スタッフを2名委託し派遣することで、各学校における図書室の整備や児童生徒への読み聞かせ、ブックトーク等を行っている。今後も学校図書館の活用促進及び読書活動の推進に向けて積極的に活用していく。

【指標1-2②A】全国体力・運動能力調査における田村市の状況（全国平均値＝50）



〈考察〉

- 小学生では、体格（身長・体重）では全国平均を上回っているものの、体力・運動能力に関しては、全国と比較すると低い要素が多く、年度毎の課題は多少異なるものの、筋力・筋持久力、全身持久力、スピード、筋パワーなどバランスよく向上させることが必要である。中学2年生においては、体格面では全国平均を上回るとともに、体力・運動能力に関しても全国平均を上回ることができた。
- 幼児期から小学校中学年においては、運動に対する二極化を防ぐこと、幼児期には、多様な動きを経験できるような遊びを工夫し、発達の特性に合った遊びを経験させることが必要である。学童期（低・中学年）においても、運動身体づくりプログラム活用し、動ける体づくりをさらに推進すること、学校行事等と関連させながら目標をもたせ、日常的に体を動かす機会を確保していくことが必要である。

- 小学校高学年以降においては、短距離走やハードル走などにおいて、スピードや筋パワーを高める運動を工夫して取り入れるとともに、マラソン、水泳など全身を使って長い時間運動する機会を設けて、心肺機能を高めていくことを、体育の授業や部活動に取り入れるようにしたい。

【指標 1-2②B】各校の体力向上推進計画の実施状況

運動身体づくりプログラムの実施（小学校）	小学校 13校（中学校 7校では独自の体力向上プログラムを実施）
業間等を利用した運動の機会の確保（小学校）	・朝（業間）マラソン・運動タイムの実施 ・陸上競技練習の工夫
部活動の改善と特設部の活動の工夫（中学校）	・特設陸上部と駅伝部の活動時間と参加人数の確保 ・部活動でのランニングや体力（体幹）トレーニングの取組
その他の体力向上の取組	・体育専門アドバイザーの活用 ・外部講師（陸上・ダンス）の活用 ・スポーツ笑顔の教室の活用 ・運動の楽しさを味わわせる体育授業の工夫 ・ダンスをとおした動ける体づくり ・体育の合同授業とTTによる指導 ・体育行事での個人目標の設定と練習機会の確保 ・体力・運動能力調査での個人結果の分析と活用 ・対外大会への積極的な参加奨励 ・指導力向上のための校内研修と校外研修会への参加 ・肥満傾向改善のための食育の実践

〈考察〉

- 小学校では、日課表に体力づくりの時間を設け、体育の日常化に取り組んだり、外部講師の活用や体育授業のTTなど、効果的な指導と指導力向上の取組が実施された。
- 中学校では、特設陸上部や駅伝部の練習に年間をとおして取り組んだり、選手以外の練習参加を奨励したりして、学校全体の体力向上に意識して取り組んでいた。
- 第33回全国小学生陸上競技交流大会男子走幅跳において、船引小学校6年児童が優勝（記録5m38cm）を果たすことができた。

【指標 1-2②C】小学校水泳大会・陸上大会の参加者数

大会名	実施日	会場	参加者数
第12回市小学校水泳大会	7月25日(火)	大越つつじヶ丘プール 船引小学校プール	314名（4-6年希望者） 296名（4-6年希望者）
大13回市小学校陸上競技大会	9月13日(水)	田村市陸上競技場	298名（全6年） ※川内小 10名含む

〈考察〉

- 小学校水泳大会、小学校陸上競技大会への参加に向けて、各校とも個人に目標をもたせたり、計画的に練習に取り組みせたりするなど、体力向上の機会として大会を活用することができた。
- 水泳大会における6年生の参加率は、東部大会(大越つつじヶ丘プール)が98.3%、西部大会(船引小プール)が88.8%と高い参加率となった。低学年からの体育の時間における学習や放課後の練習を通して泳力を高めることができた。
- 陸上大会では、多くの児童が自己記録を更新し、自分の設定した目標を達成することができた。(大会新記録は2種目)

【指標1-2②D】食育に関する研修及び栄養教諭・栄養士の授業支援状況

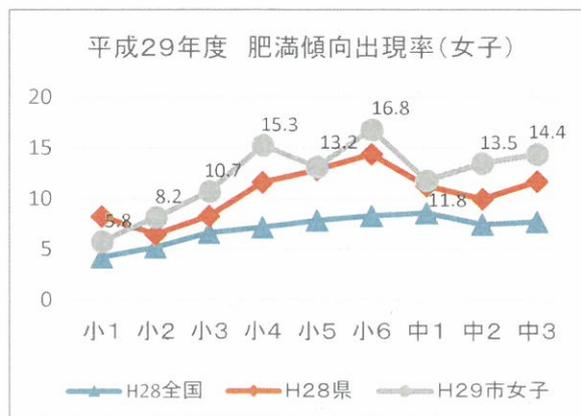
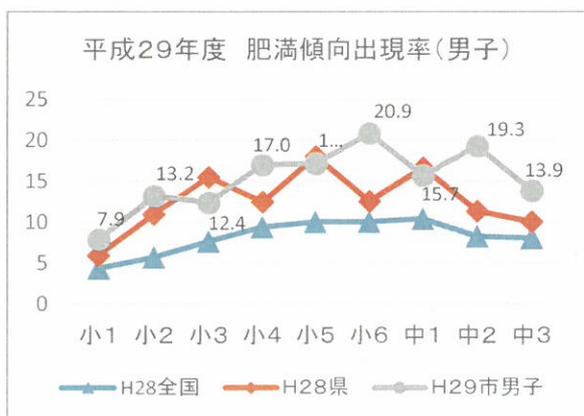
○ 食育に関する研修

研修会等名	参加者数	内 容
市小・中学校養護教諭研修会	20名	<ul style="list-style-type: none"> ・市の健康教育の課題について ・田村市の保健事業について ・「児童生徒の健康課題の解決に向けた取組について」(講演) ・協議・情報交換:各校の健康教育の取組について

○ 栄養教諭・栄養士の食に関する指導の授業支援等

対象(校種)	回 数
・市内幼稚園「食に関する指導」	3回
・市内小学校「食に関する指導」	103回
・市内中学校「食に関する指導」	11回
・保護者「食育講話・試食会説明」	22回

○ 肥満傾向児の出現率



〈考察〉

- 各小中学校では、食育推進コーディネーターを中心に、毎日の給食指導を生かした食育や、養護教諭や給食センター栄養教諭・栄養士による「食に関する指導」などをおして、「食べる力」「感謝の心」「郷土愛」を育成している。
- 県の食育事業である「食育専門家派遣事業」では、食に関する集団指導や個別指導、児童や保護者への講話など学校の実態に応じた学習をすることができた。さらに、県産食材を活用し、栄養バランスのとれた献立を作成する「ふくしまっ子 ごはんコンテスト」には、市内小・中学校 17 校から 475 点の応募があり、常葉小学校 6 年生が小学校上学年の部で優秀賞（県 2 位相当）、大越中学校が学校賞を受賞した。
- 市児童生徒の健康課題である「う歯罹患率」については、昨年 1 月から、幼稚園と小学校においてフッ化物洗口事業を開始するとともに、小中学校でのイエテボリ法による歯みがきや歯科衛生士による歯科指導、家庭と連携したう歯治療の推進等により改善に努めている。もう一つの課題である「肥満傾向児出現率」については、全体的に県平均よりも高く、食育の面からも、望ましい食習慣、運動を含めた生活習慣の改善にアプローチすることが必要である。

【指標 1 - 2②E】薬物乱用防止教室及び思春期保健教室実施状況

	内 容	実施校
薬物乱用防止教室	◇外部講師活用	小学校 13 校・中学校 7 校
思春期保健教室	◇外部講師活用	小学校 13 校・中学校 7 校

【指標 1 - 2②F】放射線教育の実施状況

	学校数	教科領域	内 容 等
小学校	13	学級活動 理科	放射線って何だろう 放射線から身を守るために 放射線教育における指導方法等研修会 ・外部講師（鳥取大学）の活用 ・大越小学校、都路小学校
中学校	7	学級活動 理科	科学技術と人間、放射線と放射能、内部被曝と外部被曝、半減期と放射線量、食物と放射線、放射線の人体への影響、除染、放射線と未来 等

【指標 1 - 3 A】 計画訪問等の実施状況

	計画訪問				要請訪問				個別支援訪問				合計
	幼稚園	小学校	中学校	小計	幼稚園	小学校	中学校	小計	幼稚園	小学校	中学校	小計	
4月													
5月										26	14	40	40
6月	3	24	3	30		3		3		4	2	6	39
7月		13	10	23			1	1	1	2	4	7	31
8月										1		1	1
9月	5	11	6	22	1	7		8		9	2	11	41
10月			3	3		2		2		8	2	10	15
11月			7	7	1	9		10	1	6	2	9	26
12月						2	2	4	1	4	2	7	11
1月						2		2		3	1	4	6
2月						3		3	6	17	6	29	32
3月													
合計	8	48	29	85	2	28	3	33	9	80	35	124	242

(訪問者延べ人数)

- ※1 「計画訪問」は、管理運営に関する訪問または教育指導に関する訪問で、市教委が計画し、県中教育事務所に管理主事・指導主事等の派遣要請等を行って実施しているものである。
- ※2 「要請訪問」は、校内授業研究会、小・中連携授業研究会、小教研、中教研等の要請によるものである。
- ※3 「個別支援訪問」は、教育長訪問や人事評価制度に基づく訪問、または各学校の学力向上や生徒指導、障がいを持つ児童生徒のニーズに応じた指導方法、教育相談などについて該当校と改善に向けた協議等を行うものである。

〈考察〉

- 計画訪問では、市教育大綱（振興推進プログラム）の進捗状況を把握するとともに、各学校の教育活動及び施設設備等の管理全般にわたって改善・努力を要する事項等について協議及び助言・指導を行った。計画訪問を実施することで全職員により教育活動を全般にわたって見直す機会になるなど適切な学校運営を支援することができた。
- 要請訪問では、校内授業研究会や小・中連携授業研究会を中心に授業改善・学力向上へつながる積極的な支援ができた。
- 個別支援訪問では、学校がかかえている課題等の話し合いの中で、実態に応じた具体的な対応等について助言してきた。また、学力向上に関しては、算数・数学の授業改善に向けて、教員個々の指導法のあり方について、複数回にわたり継続的に指導を行うことができた。

【指標 1－3 B】各学校における服務倫理委員会の開催状況

1 田村市立小・中学校の服務倫理委員会の開催状況

開催回数	1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回以上	平均
	0校	20校						

2 課題及び主な内容

議 題	平均	改善された内容・対策等(主なもの)
交通事故・ 飲酒運転等	5.2回	<ul style="list-style-type: none"> ・駐在警察官等外部講師を活用した飲酒運転根絶及び交通事故防止意識の啓発 ・通勤経路の危険箇所把握及び冬期間の事故防止の徹底 ・飲酒運転根絶に向けたアルコール分解に関する研修 ・安全運転のための「3つの10」の確認と励行
学校経理事務	1.5回	<ul style="list-style-type: none"> ・チェックシートを活用した振り返りの場の設定 ・複数での会計事務の徹底 ・校内規定に基づく会計事務方法の周知と徹底 ・臨時徴収（現金徴収）を行わない経理方法の見直し
体罰	3.9回	<ul style="list-style-type: none"> ・当事者意識を高めるための事例研究の実施 ・生徒指導上の問題に対する複数教員による指導体制強化・部活動での複数教員での指導体制づくり
セクハラ・ わいせつ	3.1回	<ul style="list-style-type: none"> ・チェックシート活用によるセクハラ・わいせつの防止 ・個人カメラの持ち込み禁止 ・複数での指導の体制づくり ・相談窓口設置について生徒・保護者への周知と環境整備
個人情報管理	2.4回	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報管理規定等の見直し ・卒業生等の個人情報の処分方法の確認と徹底 ・外部持ち出し時の管理徹底（パスワード付きUSB等使用）
その他		<ul style="list-style-type: none"> ・学校における不祥事根絶行動計画の周知徹底 ・不祥事根絶に関する研修の伝達講習 ・窃盗等の事例に関すること ・不祥事根絶スローガン等の作成 ・スクールコンプライアンスに関すること ・私有自動車における車検証及び保険証の確認 ・教員免許状の更新に関すること

〈考察〉

- 校内服務倫理委員会の年間開催回数は平均12.9回となっており、各学校において、福島県教育委員会の重点施策である「不祥事根絶のための行動計画」に基づいた取組がなされている。
- 今年度発生した事案に基づいた校内服務倫理委員会での協議により、「当事者意識」を高める取組や実践がなされている。外部講師を積極的に活用する学校が増えた。
- 田村市教育委員会服務倫理対策委員会において、セクハラわいせつ行為、多忙化解消など、県や各学校で課題となっていることの解決に向けた協議を行い、校長会議で周知したことで、市全体としての共通理解や実践化がなされてきている。

【指標 1－4 A】教育振興推進プログラムにかかる各学校の達成状況

	重点	小中学校ともに大いに達成（8割以上） （4段階評価平均3.2以上）	今後改善が必要である（6.5割以下） （4段階評価平均3未満）
項 目	確かな学力	○活用力を育成する授業の充実 ○小・中連携による取組 ○学力実態調査の結果分析と活用 ○小学生英語活動集中プログラム（小）	○中・高連携(中)
	心と体	○教育活動への地域人材の積極的な活用 ○道徳の時間での国、県資料の活用 ○道徳的実践力の育成 ○体育の授業と体育的行事の充実 ○食育に関する研修や授業の充実 ○薬物乱用防止教室等の開催 ○歯科保健教室 ○思春期保健教室の開催 ○防災教育の推進	○「道徳の時間」の充実(中) ○「心の教育」資料集の活用(中) ○9年間を見通したキャリア教育の推進(小) ○市図書館のデータベースの活用(幼・中)
	教職員	○学力向上推進会議の充実 ○校内相談体制の構築 ○体罰・セクハラ絶無のための研修 ○教職員の勤務実態の適正化と健康増進	
	学校支援	○教育活動の積極的な公開 ○地域ボランティアの教育活動への積極的活用	
	幼児教育	○保幼小連携による幼児教育の推進(幼)	
	ニーズ対応	○適応指導の充実 ○いじめ・不登校への迅速で適切な対応 ○アレルギー、感染症への対応 ○非常時情報伝達体制整備	○関係機関との連携による「サポートネット田村」運営の充実(中)

※ 各学校長による「田村市教育振興推進プログラム点検・評価表（80項目）」に基づいた評価によって教育振興推進プログラムの進捗状況を把握したものである。

〈考 察〉

- 本年度の重点として取り組んだ教職員の授業改善に向けた研修、幼小中連携、いじめ防止等について高い達成状況を示している。「授業スタンダード」、指導主事派遣による研修充実、いじめ防止に対する施策に成果が見られた。
- 学校支援地域本部との連携により地域ボランティアの積極的な活用や図られてきた。また、各校・園ともたよりやホームページにより、積極的に学校の様子や子どもたちの頑張りを発信するなど開かれた学校・園に向けた取組が見られている。
- 今年度、Jアラートの発令があり、各学校や幼稚園・こども園における防災意識の高まりが見られ、非常時情報伝達体制（Eメッセージ）の重要度が増している。
- 新学習指導要領への移行に伴って「特別の教科 道徳」が導入されるにあたり、指導方法や指導資料の提供等を充実させていくことが必要である。

【指標 1 - 4 B】 学校関係者評価の実施状況

[小・中学校]

※学校関係者評価とは、保護者や地域の方々による評価のこと。

	学校数	自己評価の 実 施	実 施 率	自己評価の報告 (設置者へ)	実 施 率
平成 2 6 年度	2 3 校	2 3 校	1 0 0 %	2 3 校	1 0 0 %
平成 2 7 年度	2 3 校	2 3 校	1 0 0 %	2 3 校	1 0 0 %
平成 2 8 年度	2 1 校	2 1 校	1 0 0 %	2 1 校	1 0 0 %
平成 2 9 年度	2 0 校	2 0 校	1 0 0 %	2 0 校	1 0 0 %
	学校数	学校関係者 評価の実施	実 施 率	学校関係者評価の 公表(設置者・保護者へ)	実 施 率
平成 2 5 年度	2 3 校	2 3 校	1 0 0 %	2 3 校	1 0 0 %
平成 2 4 年度	2 3 校	2 3 校	1 0 0 %	2 3 校	1 0 0 %
平成 2 7 年度	2 1 校	2 1 校	1 0 0 %	2 1 校	1 0 0 %
平成 2 8 年度	2 0 校	2 0 校	1 0 0 %	2 0 校	1 0 0 %

[幼稚園・こども園 (幼児教育部)]

	園数	自己評価の 実 施	実 施 率	自己評価の報告 (設置者へ)	実 施 率
平成 2 5 年度	7 園	7 園	1 0 0 %	7 園	1 0 0 %
平成 2 6 年度	7 園	7 園	1 0 0 %	7 園	1 0 0 %
平成 2 7 年度	7 園	7 園	1 0 0 %	7 園	1 0 0 %
平成 2 8 年度	7 園	7 園	1 0 0 %	7 園	1 0 0 %
	園数	学校関係者 評価の実施	実 施 率	学校関係者評価の 公表(設置者・保護者へ)	実 施 率
平成 2 5 年度	7 園	7 園	1 0 0 %	7 園	1 0 0 %
平成 2 6 年度	7 園	7 園	1 0 0 %	7 園	1 0 0 %
平成 2 7 年度	7 園	7 園	1 0 0 %	7 園	1 0 0 %
平成 2 8 年度	7 園	7 園	1 0 0 %	7 園	1 0 0 %

〈考察〉

- 田村市内の幼稚園・小学校・中学校全てにおいて、自己評価の実施・公表、保護者など学校関係者による評価の実施と公表、評価結果の設置者への報告を行っている。
- 学校関係者評価の実施と考察をもとに、学校経営運営ビジョンの改善、評価項目の見直しを行い、委員からの意見を積極的に学校運営に生かし、特色ある教育活動を推進している。なお、次の項目について改善を図っている。
 - ・教職員の学校経営にかかる自己評価への学校評議員からの意見
 - ・校内服務倫理委員会の協議にかかる評議員やP T A役員からの意見
 - ・地域における子どもたちの活躍やマナー向上についての評議員からの報告
 - ・開かれた学校にするための学校だよりや学校ホームページの改善についての意見
- 幼稚園・こども園 (幼児教育部) では、各園において自己評価や学校関係者評価を実施し、その評価を年間計画に反映し、教育活動の改善を図ってきている。

参考：資料及び施策指標の達成状況

【指標1-5A】

田村市公立幼稚園預かりプログラム 2年保育5歳児

小学校への接続期（アプローチ期）

期/月	第1期（4月・5月）	第2期（6・7月）	第3期（8・9・10・11・12月）	第4期（1・2・3月）
目的	成長になった喜びや発見をもって、園生活を楽しくし始める。	無心や天候に馴染んだり、工夫したりして遊ぶ時期。	クラス全体で遊び楽しむ活動や行事を通して天候の力を借り、個性を伸ばしながら遊びを楽しむ時期。	活動や生活に見通しや目的を持ち、その実現に向けて取り組む中で、児童性や個性を伸ばす時期。
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 嬉しい喜びや発見をもって、園生活を楽しくし始める。 教師や天候と一緒に、一緒に遊んだりして楽しむ。 身近な自然に親しみ、自然物の成長や変化に興味をもつ。 興味のある遊びや発見を見つけて教師や天候と一緒に楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> 興味のあることを探し取り工夫したりしながら遊び楽しむ。 自分の思いを伝えたり、相手の気持ちを察する。 自分の思いを伝えたり、相手の気持ちを察する。 自分の思いを伝えたり、相手の気持ちを察する。 	<ul style="list-style-type: none"> 天候と一緒にいろいろな活動遊びに取り組み、遊びや生活を楽しくする。 自分の思いを伝えたり、相手の気持ちを察する。 天候と関わりあう活動を通して遊びや生活を楽しくする。 自分の思いを伝えたり、相手の気持ちを察する。 	<ul style="list-style-type: none"> 天候と関わりあう活動を通して遊びや生活を楽しくする。 自分の思いを伝えたり、相手の気持ちを察する。 天候と関わりあう活動を通して遊びや生活を楽しくする。 自分の思いを伝えたり、相手の気持ちを察する。
内容 （①は必ず実施）	<ul style="list-style-type: none"> 戸外で遊ぶ機会を設ける。 園生活に必要なスキルを練習し始める。 教師や天候と一緒に、好きな遊びを楽しむ。 年少児とかわらぬ遊びをする。 自然の成長や変化に興味をもつ。 興味のある遊びや発見を見つけて教師や天候と一緒に楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> 水や砂、土などで遊ぶ機会を設ける。 自分の思いを伝えたり、相手の気持ちを察する。 自分の思いを伝えたり、相手の気持ちを察する。 自分の思いを伝えたり、相手の気持ちを察する。 	<ul style="list-style-type: none"> いろいろな活動遊びの中で自分の個性を伸ばしたり楽しむ機会を設ける。 自分の思いを伝えたり、相手の気持ちを察する。 自分の思いを伝えたり、相手の気持ちを察する。 自分の思いを伝えたり、相手の気持ちを察する。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えや思いを伝えたり楽しむ機会を設ける。 自分の思いを伝えたり、相手の気持ちを察する。 自分の思いを伝えたり、相手の気持ちを察する。 自分の思いを伝えたり、相手の気持ちを察する。
	<ul style="list-style-type: none"> 子ども一人一人の個性や生活、発達などによって対応し、変更して遊びや活動のよう環境調整を多めに行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 遊びの中で、探したり工夫したりして遊ぶ時期や場を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 活動的な遊びや発見するよう道具や用具を身近に用意し、十分に活用できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 活動遊びに積極的に取り組み、自分の力を試し、受け入れられて、仲間意識を持って遊ぶようになる。

【指標1-5B】市内公立・私立幼稚園におけるはぐくみステップの達成状況

		4歳児	達成度	5歳児	達成度
自分のこと	名前・家族	自分の名前や家族のことがわかる。	82%	自分の名前や家族の名前を言うことができる。	80%
	あいさつ	「おはようございます」「さようなら」が言える。	73%	元気にあいさつできる。	74%
	返事	自分の名前を言われたら返事をする。	79%	自分の名前を言われたら元気よく返事をする。	78%
	服・着脱	自分で服を着たり脱いだりする。	78%	自分で服を着たり脱いだりしたたりすることができる。	75%
	準備・片付け	自分のものと友達のものとは区別する。	77%	自分で使うものを準備し片付けることができる。	67%
	排泄	一人でトイレに行ける。	76%	上手にトイレを使うことができる。	78%
食事	分量・食べ方	分けられたものは苦手なものでも食べようとする。	51%	分けられたものを残さず食べようとする。	64%
	はしの使い方	はしを持って食べる。	73%	はしを正しく持って食べることができる。	59%
	手洗い	食事の前に手を洗う。	62%	食事の前に進んで手を洗うことができる。	59%
	食器片付け	食事の後は、片付けをする。	63%	食事の後は自分で片付けをすることができる。	67%
	歯磨き	食後は歯磨きやうがいをやる。	67%	食後はいつも進んで歯を磨くことができる。	55%
かわり	友達と遊ぶ	友達と遊ぶ。	78%	友達と楽しく遊ぶことができる。	80%
	話す	先生や友達、家族に自分のことを話す。	76%	先生や友達、家族に自分の考えを話すことができる。	75%
	聞く	先生や友達、家族の話聞く。	67%	先生や友達、家族の話素直に聞くことができる。	68%
	協力・思いやり	友達といっしょに活動する。	76%	友達を見て、困っているときには助けようとする。	76%
	お手伝い	お手伝いをする。	73%	進んでお手伝いをする。	73%
	約束	きまりを守る。	52%	きまりの大切さを知り、きまりを守る。	63%

〈考察〉

- 「はぐくみステップ」をもとに定期的に子どもの成長を見つめることで、幼稚園・こども園・保育所と保護者が共通理解に立って、望ましい生活習慣の形成を図ろうとする意識の涵養と、子どもの成長を見取り、親子で成長を確認したり、就学に向けて自信をもたせたりする機会となっている。
- 食事の分量や食べ方、歯磨きなど健康課題に関する項目では、全体的に達成度が低い傾向にある。う歯予防と肥満傾向の解消は市の重要課題であるため、今後も家庭への啓発を図りながら、園と家庭が協力して取り組む必要がある。

【指標1-5C】市内保育所共通カリキュラム

保育目標	を深め、集団で活動することを楽しく。				所長	主任	担任
年間区分	I期(4月～6月)	II期(7月～9月)	III期(10月～12月)	IV期(1月～3月)			
わらい	○安心して生活できる場において、積極性や自覚性が育つようにする。 ○自由に活動できる環境を設定して、保育士等との信頼関係を構築して生活できるようにする。	○仲間が楽しく遊べる場を準備し、友達と関わって遊ぶ楽しさを伝える。 ○友達との関わりを楽しみながら、言葉で伝え合っていく。 ○友達と目的に向かって意欲的に取り組む。	○自然活動の場を十分に用意し、成長の喜びを味わわせると共に自立の態度を促す。 ○友達との関わりを楽しみながら、言葉で伝え合っていく。 ○友達と目的に向かって意欲的に取り組む。	○いろいろな活動に自分なりの目的をもって取り組む習慣を、満足感や達成感を味わう。 ○自然の文化に興味や関心をもつ。 ○連絡するに時期をもちて生活する。			
養護	○一人一人の健康状態や発達状態を把握し、適切な対応を自ら取れるようにする。 ○身近な環境に作用し、安全な環境作りを行う。	○生理的欲求を満たせるよう、個々の生活リズムに合わせて快適な生活ができるようにする。 ○体調を把握し、自分で体の異常を訴えられるようにする。	○友達と目的に向かって取り組む中で、クラスの友達とのつながりを感じたり、自分なりの役割を果たす。 ○友達や保育士と一緒に運動したり、体を動かしたりして、ルールのある遊びを楽しむ。	○子どもの発達を見直し、全員が楽しく活動できるように、個々にあった活動ができるようにする。 ○遊ぶ時と、集中して取り組む時のメリハリをつける。			
教育(◎は教科につながる基礎)	健康 ○戸外で体を動かす、伸び伸びと遊ぶ。 ○身近な環境に興味を持って関わり、遊びを体験していく。	健康 ○活動と休息のバランスのよい生活リズムに心地よさを感じる。 ○ボール遊びを通して健康な心身づくりをする。 ○水・砂・泥などで、体全体を使って思いっきり遊ぶ。	健康 ○友達と目的に向かって取り組む中で、クラスの友達とのつながりを感じたり、自分なりの役割を果たす。 ○友達や保育士と一緒に運動したり、体を動かしたりして、ルールのある遊びを楽しむ。	健康 ○衛生的に安全な場所を、思いやりあふれる心で楽しむ。 ○友達と楽しく活動するためのルールや約束を守るようにする。 ○友達と関わる中で相手の気持ちに気づく。			
人間関係	○仲間としての喜びや楽しさを感じながら、つながりを深める。 ○保育士や友達と一緒に遊ぶ楽しさを感じて遊ぶ。	○友達との関わりが、一緒に遊ぶ楽しさを感じさせる。 ○友達との関わりを通して、遊びの楽しさを伝える。	○友達と目的に向かって取り組む中で、クラスの友達とのつながりを感じたり、自分なりの役割を果たす。 ○友達や保育士と一緒に運動したり、体を動かしたりして、ルールのある遊びを楽しむ。	○生活や遊びの中で、まじりやルールの大膽に気づく。 ○友達と楽しく活動するためのルールや約束を守るようにする。 ○友達と関わる中で相手の気持ちに気づく。			
環境	○自然など身近な環境への関わり方や遊び方を体験していく。	○様々な要素に興味をもつ、遊びに取り入れる。 ○身の回りのことを自分できちんとする。	○友達と目的に向かって取り組む中で、クラスの友達とのつながりを感じたり、自分なりの役割を果たす。 ○友達や保育士と一緒に運動したり、体を動かしたりして、ルールのある遊びを楽しむ。	○衛生的に安全な場所を、思いやりあふれる心で楽しむ。 ○友達と楽しく活動するためのルールや約束を守るようにする。 ○友達と関わる中で相手の気持ちに気づく。			
言葉	○経験したことや思ったことを話し、言葉で伝える楽しさを知り、絵本、紙芝居などを通して楽しむ。	○友達同士、言葉で伝えたい気持ちを伝える楽しさを知り、絵本、紙芝居などを通して楽しむ。	○友達と目的に向かって取り組む中で、クラスの友達とのつながりを感じたり、自分なりの役割を果たす。 ○友達や保育士と一緒に運動したり、体を動かしたりして、ルールのある遊びを楽しむ。	○生活や遊びの中で、まじりやルールの大膽に気づく。 ○友達と楽しく活動するためのルールや約束を守るようにする。 ○友達と関わる中で相手の気持ちに気づく。			

【指標1-5D】「田村市小学校入門期指導の手引き」

田村市立小学校 入門期指導の手引き

スタートカリキュラムの導入を主として

入門期指導におけるスタートカリキュラムの導入

- 入門期指導の目的
- スタートカリキュラムの導入
- 入門期指導の手引き
- スタートカリキュラムの導入
- 入門期指導の手引き

スタートカリキュラムって?

小学校入門期指導の手引き

学童期

学童期の学びと育ちをつなぐ

学びの習得

人との関わり

生活習慣・運動

自覚的学習

自分から関与

健康・体力

スタートカリキュラム

小学校教育

わくわくタイム

事例2 わくわくかっこたんけん

目的

内容

活動

効果

課題

0064_0065.jpg

0066_0067.jpg

〈考察〉

- 「田村市公立幼稚園共通カリキュラム」をもとに、各幼稚園で学びの基礎力を育むよう計画的に指導してきた。今年度は小学校との接続期となるアプローチ期における実践に取り組み、保・幼・小の円滑な接続を図ることに努めた。実践例をまとめ、昨年度作成した「小学校入門期指導の手引き」に追加し、活用を図っていく。

参考：施策指標の達成状況

【指標 1－6 A】特別支援教育にかかる相談、訪問等による支援

(1) 特別支援学校のセンター的機能の活用状況
インクルーシブ教育システム推進事業の活用

	小学校	中学校	合計
「相談支援」	5校 20件	1校 1件	6校 21件
「研修支援」	1校	0	2件（市教委研修含む）

(2) 特別支援啓発セミナーの開催

講師 宮城教育大学教授 藤島省太 氏

演題 「しょうがいのあるお子さんへの支援について～“ことば”と
コミュニケーションを拡げる係わり合いに視点を当てて～」

参加者 教員 292名（市内幼稚園・こども園、小・中学校）

市内外施設 47名

一般・保護者 36名 合計 375名

(3) 特別支援に関する研修会等の開催

・特別支援教育支援員研修会 3回（授業研究会含む）

・心の教室相談員研修会 3回

・田村市特別支援教育推進連絡協議会（サポネット田村）3回

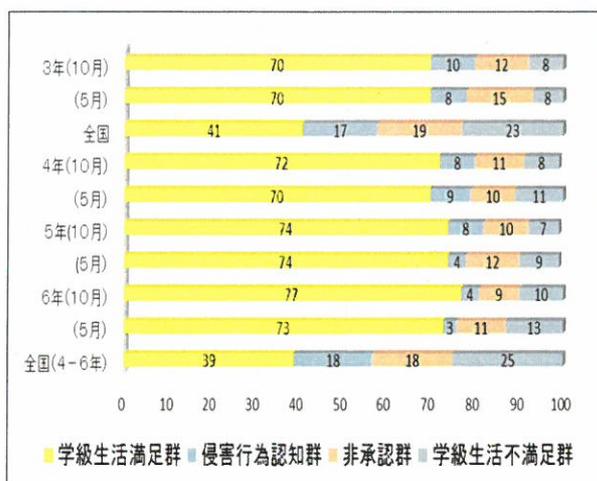
〈考察〉

- インクルーシブ教育システム推進事業を活用し、「相談支援」に関しては、市内小学校5校20件、中学校1校1件、「研修支援」においては、2回の要請を行い、特別な支援を必要とする児童生徒への適切な支援について指導助言をいただいた。
- たむら支援学校が市内に開校したこともあり、専門的な知識や具体的な児童生徒への支援の方法の指導を受ける機会がより身近になったと感じることができる。今後もより積極的に「相談支援」「研修支援」を活用していけるよう周知していく。
- 市内幼稚園・こども園、小・中学校、高等学校の教職員、支援員の研修や保護者・地域住民等への啓発の機会として開催した特別支援教育啓発セミナーでは、市内外から参加があった。特別支援教育への理解を深めるとともに、支援のあり方について具体的に学ぶ機会となった。
- 就学指導については、年度当初からの早めの相談が増えている。来庁などによる保護者との就学相談や学校見学などの訪問を含め、就学に対する保護者の意識が高くなっている。保健課の乳幼児育成指導事業「すくすく教室」との連携により、早期からの就学相談の体制が確立したことによるものと考えられる。
- 今後も、関係機関やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等と連携するとともに、相談がより効果的になるように教員研修も充実させていく必要がある。

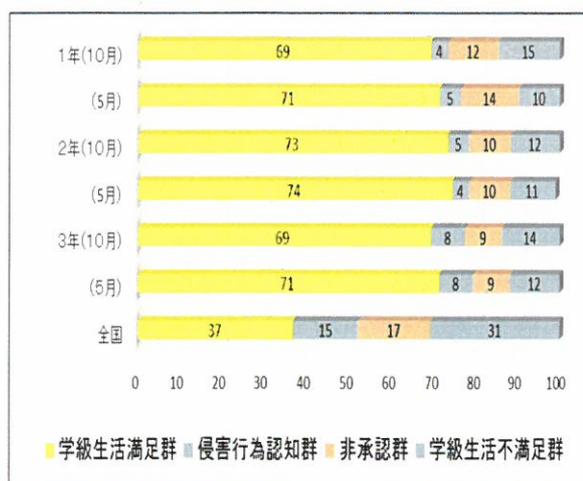
【指標 1-6 B】 Q-U 検査による学級満足度尺度及び学校生活意欲プロフィール

(1) 学級満足度尺度 (5月→10月の変容)

○ 小学校調査結果

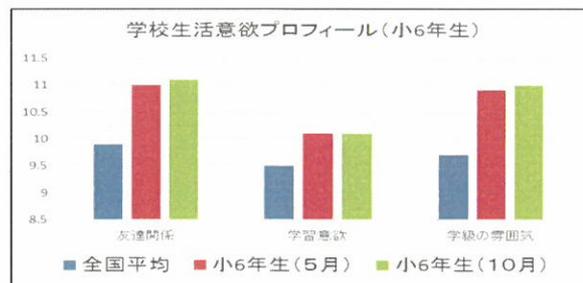
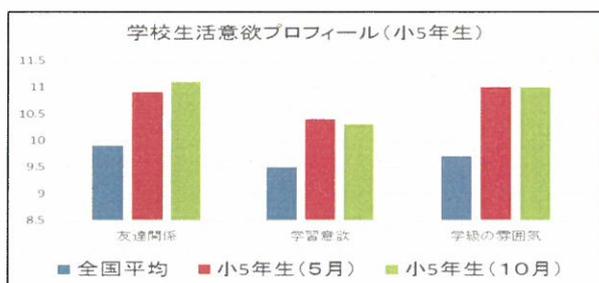


○ 中学校調査結果

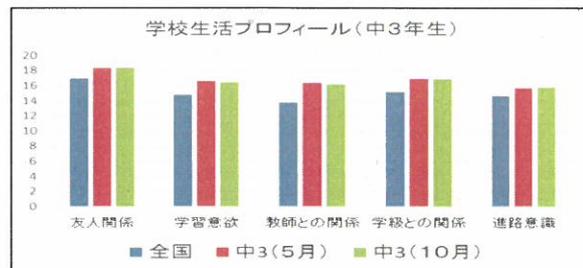
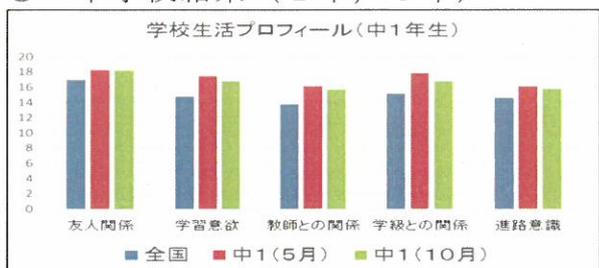


(2) 学校生活意欲プロフィール

○ 小学校結果 (5年, 6年)



○ 中学校結果 (1年, 3年)



〈考察〉

- 市内の小・中学校の学級生活への満足度は、第1回目の検査(5月)では小学校3年生から中学校3年生までの平均で71.9%であった。第2回目の検査(10月)でも平均で71.8%と同水準で、この値は全国平均と比較して30ポイント高い。各学級において一人ひとりの存在が認められるとともに学級のルール(学習規律)が確立しているため、学級に自分の居場所があり、意欲的に学校生活を送る基盤ができているといえる。
- 学校生活意欲についても、市内の小・中学校は全国平均よりも高い。友達関係や学級の雰囲気に満足度が高いため、学習意欲も高いと思われる。

る。各学校・学級で学習規律，生活規律の確立に努めているとともに，授業を学び合う学習を中心に組み立て，互いに認め合う機会が増えていることも，これらの結果に現れていると思われる。

- 今後も，Q-U検査を活用して，教育相談のP（学級集団の分析，支援計画の作成）→D（支援策の実施，授業改善）→C（学級集団の分析，支援策の効果検証）→A（再支援策の実施）サイクルを学校全体で機能させることが必要である。

【指標 1-6 C】教育相談体制におけるS C，心の教室相談員等の派遣実績

(1)緊急スクールカウンセラー派遣実績

派遣小中学校	派遣日数	派遣時間	相談件数
滝根小学校	30	180	86
大越小学校	30	180	174
都路小学校	30	180	59
船引小学校	30	180	179
滝根中学校	30	180	106
大越中学校	30	180	85
都路中学校	30	180	80
常葉中学校	30	180	199
船引南中学校	30	180	139
船引中学校	30	180	251
移中学校	30	180	74

※相談件数は1月末現在

(2)心の教室相談員派遣実績

中学校	派遣日数	派遣時間	小学校	派遣日数	派遣時間
滝根中学校	51	300	滝根小	3	12
大越中学校	76	300	大越小	3	12
都路中学校	76	300	都路小	3	12
常葉中学校	89	350	関本小、常葉小、西向小	9	36
船引南中学校	61	300	芦沢小、船引南小	6	24
船引中学校	143	800	船引小、美山小、瀬川小、要田小	12	48
移中学校	60	300	緑小	3	12

〈考 察〉

- 緊急スクールカウンセラーが配置されている小・中学校では，不安や悩みを抱える児童生徒に対し，一人ひとりに寄り添って相談を実施し，担任等と連携して不登校の予防や学校不適応の解消に貢献した。また，校内の生徒指導委員会に加わり，専門的な立場から，児童生徒理解や適切な支援の仕方についてアドバイスをいただいている。また，不安を抱える保護者についても，ていねいに対応していただき，学校との信頼関係を深めることができている。
- 心の教室相談員は，主に中学校において，学校生活や友人関係に不安を抱える生徒，相談室登校の生徒等に対し，信頼関係を築きながら適切に関わり，不安や悩みの解消に努めている。また，不登校傾向の生徒に対しては，スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーと連携を図りながら，担任を支えてチーム支援に努めている。小学校においては，中学進学への不安や悩み等の相談や，小学校教員との情報交換を通して，事前に支援の必要な児童を把握して，中1ギャップの解消を図っている。
- 緊急スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、心の教室相談員の役割を学校全体で共通理解し，それぞれの立場でどのような支援ができるか，ケース毎に明らかにしていくことが必要である。

田村市の将来像 「あぶくまの人・郷・夢を育むまち ～はつらつ高原都市 田村市～」
 田村市教育委員会基本方針 「未来を担う人づくりのまち」

地域が育て 地域で育つ市民参加の教育

■は今年度重点施策

2 生涯学習の充実

① 公民館の活性化を図ります。

(1) 学級講座の充実

- 市民のニーズを捉えた学級講座の企画
 - 学級講座の評価と再検討
 - 学習ニーズアンケート調査の実施と結果の共有
 - 共同開催する学級講座の企画

(2) 公民館運営の活性化

- 市民に愛される公民館づくり
 - 管理運営体制の検証
 - 市民に愛される公民館の管理運営方法の検討

② 放課後子ども教室事業を推進します。

(1) 放課後子ども教室推進

- 放課後子ども教室の円滑な運営
 - 実施校の継続
- コーディネーター及び指導員の育成と確保
 - コーディネーターの育成
 - 指導員の育成
 - 指導員の確保
- 放課後子ども教室の周知及び広報
 - 教室だより、めだかの学校通信の発行

③ 学校支援地域本部事業の推進を図ります。

(1) 学校支援地域本部事業の円滑な実施

- 学校支援地域本部事業の推進
 - 学校支援地域本部会議及び地域教育協議会の開催
 - 未実施地域での事業開始に向けた検討
- 地域の人材活用体制の整備
 - コーディネーターの育成
 - ボランティアの確保と有効活用、資質向上
- 学校支援地域本部事業の周知及び広報
 - 学校支援地域本部だよりの発行

④ 図書館の機能を充実します。

(1) 図書館の機能充実

- 利用促進に向けた図書館資料及び機能の充実
 - ニーズに合わせた蔵書の確保
 - 貸出予約の利便化
 - 年代別コーナーの設置
 - 自主事業の充実
 - 図書ボランティアの育成
- 子どもの強く生きぬく力を育むための読書活動の推進
 - 第二次田村市子ども読書活動推進計画の実践
 - 子どもが利用しやすい館内環境の整備
 - 学習支援機能の充実
 - 子どもの読書活動にかかわる関係者の資質向上
- 図書館事業の周知
 - 市民等への広報

3 芸術文化活動の推進

① 芸術文化活動の推進を図ります。

(1) 多様な芸術文化活動への支援

- 芸術文化活動への支援
 - 芸術文化団体への支援
 - 各地区文化祭・芸能祭への支援

(2) 文化センターを活用した芸術文化の提供

- 質の高い自主文化事業等の実施
 - 文化センター運営委員会の開催
 - 小中学校芸術鑑賞教室の開催
 - 市民による身近な芸術文化の提供
 - 市民等への広報

4 文化財の保護と継承

① 文化財の保護と継承を推進します。

(1) 地域に残された文化財の保存と継承

- 文化財の保存と継承
 - 文化財保護審議会の開催と県文化財保護指導者研修会への参加
 - 指定文化財の防災訓練と防火査察の実施
 - 指定文化財の周知
 - 民俗文化の保存と伝統芸能の継承
 - 田村市史シリーズの継続発行

(2) 地域の歴史を学び親しめる施設の整備

- 歴史民俗資料館の活用と文化財資料館の整備
 - 歴史民俗資料館の活用促進
 - 文化財資料館の整備



5 スポーツ・レクリエーション活動の推進

① スポーツ振興の推進を図ります。

(1) 幅広い年代が親しめるスポーツ・レクリエーション活動の推進

- 運動公園内の施設によるスポーツ交流人口の拡大
 - 県内外からの高校、大学の合宿誘致
 - 県レベル各種大会の誘致
 - 施設のPR
 - クロスカントリーコースの利活用
- 田村富士ロードレース大会への参加者の拡大と推進
 - 学校・スポーツ団体との連携による参加者の拡大
- ふくしま駅伝の参加並びに記録への挑戦
 - 年間を通じた質の高い練習、スタッフの確保
 - 田村市チーム運営の委託契約

(2) スポーツ・レクリエーションを通じた交流の推進

- 小中学生を対象としたスポーツ大会・講習会等の開催
 - ソフトボール大会、駅伝大会等の開催
 - スポーツ教室の開催

(3) 活動を支える充実した指導体制の確立

- 指導者対象の研修会、講習会の開催
 - スポーツ推進員研修会・講習会
 - スポーツ講演会の開催

[田村市の教育10のキーワード]

- ①安全・安心 (危機管理)
- ②共生と連携と評価の時代 (教育の道しるべ)
- ③実践と点検・検証 (教育活動の原理原則)
- ④真実は相手が理解してはじめて真実になる (説明責任・結果責任)
- ⑤心身を養えば学力は伸びる (知・徳・体のとらえ)
- ⑥基礎・基本 (学力向上の基盤)
- ⑦当たり前のことを当たり前と思って当たり前に行動する (行動基準)
- ⑧感動と共感と感化 (情操の育成)
- ⑨愛郷心 (語り継ぐ田村の教えと郷土への誇り)
- ⑩市民参加の教育づくり (地域連携の強化と地域教育力の向上)

2 教育振興推進プログラムダイジェストⅡ（生涯学習課所管事業）

2 生涯学習の充実

施策目標 2-1 「公民館の活性化を図ります。」

生涯学習に対する市民の意欲向上を図るため、それぞれの地域における多様なニーズを捉えた特色のある学級講座を企画するとともに、市民同士の交流機会を拡充するため、各公民館共同での学級講座開催や地域外市民の参加も検討するなどして、公民館の活性化を図ります。

また、誰もが気軽に訪れることができ、身近に利用しやすい市民に愛される公民館づくりを推進します。

指標 2-1 A：市民のニーズを捉えた学級講座の企画

- ・学級講座の評価と再検討
- ・学習ニーズアンケート調査の実施と結果の共有
- ・共同開催する学級講座の企画

指標 2-1 B：市民に愛される公民館づくり

- ・管理運営体制の検証
- ・市民に愛される公民館の管理運営方法の検討

施策目標 2-2 「放課後子ども教室事業を推進します」

子どもたちが学年の垣根をこえて、共に遊び・学びあうことにより、心豊かで健やかに育まれる環境を提供するために、地域の方々の協力を得て見守りを行うとともに、安全・安心な居場所を設置し、健全な児童の育成を行います。

指標 2-2 A：放課後子ども教室の円滑な運営

- ・実施校の継続

指標 2-2 B：コーディネーター及び指導員の育成と確保

- ・コーディネーター育成
- ・指導員の育成
- ・指導員の確保

指標 2-2C : 放課後子ども教室の周知及び広報

- ・教室だより、めだかの学校通信の発行

【参考資料】

①放課後子どもプラン運営委員会事業報告

開催期日	開催場所	事業名	内容	備考
6月2日(金)	田村市役所	第1回運営委員会	委員委嘱,平成29年度事業計画など	委員9名出席
7月14日(金)	要田小学校	県中教育事務所 放課後子ども教室訪問	要田めだかの学校活動状況視察の対応	事務局対応
9月4日(月)	瀬川小学校	県中教育事務所 放課後子ども教室訪問	瀬川めだかの学校活動状況視察の対応	事務局対応
7月16日(日)	田村市役所	田村っ子ゆめまつり2017	名義後援,イベント協力	事務局対応
8月23日(水)	玉川村	事務局 対応	講演,講習(レクリエーション教室),情報交換,教室見学	事務局対応
9月25日(月)	緑小学校	県中教育事務所 放課後子ども教室訪問	緑めだかの学校活動状況視察の対応	事務局対応
10月11日(水)	田村市役所	第2回運営委員会	平成29年度事業進捗状況報告など	委員9名出席
10月11日(水)	田村市役所	田村市社会教育関係者 合同研修会	県中教育事務所・齊藤氏による講話	委員6名出席
1月24日(水)	須賀川市	フローアップ研修会 (県主催事業)	事業概要説明,講演等	事務局対応
2月16日(金) ※予定	船引公民館	放課後子ども教室コーディネーター・指導員等情報交換会	講演,情報交換	安全管理員等35名出席
3月下旬	各学校	広報誌「めだかの学校通信」Vol.20発行	広報誌の発行(学校を通じて各戸へ配付)	
3月19日(月) ※予定	田村市役所	第3回運営委員会	平成29年度事業報告 など	

②放課後子ども教室推進事業(めだかの学校)実施報告

○めだかの学校実施状況

	名称	開催期間	開催日数	全児童数	登録児童数 (9月末現在)	参加率	延参加児童数 (9月末現在)
1	滝根めだかの学校	H29.4.10～H30.3.16	181日	198人	170名	86%	10,037人
2	関本めだかの学校	H29.4.17～H30.3.16	192日	54人	53名	98%	2,209人
3	西向めだかの学校	H29.4.12～H30.3.14	117日	58人	57名	98%	1,605人
4	芦沢めだかの学校 (芦沢幼稚園含む)	H29.4.13～H30.2.23	174日	61人	61名	100%	2,351人
5	船引南めだかの学校 (船引南幼稚園含む)	H29.4.13～H30.3.16	185日	108人	80名	74%	4,344人
6	美山めだかの学校	H29.4.18～H30.3.5	146日	56人	56名	100%	2,356人
7	緑めだかの学校 (緑幼稚園含む)	H29.4.10～H30.3.9	185日	52人	52名	100%	3,769人
8	瀬川めだかの学校	H29.4.12～H30.3.22	193日	36人	36名	100%	1,404人
9	要田めだかの学校	H29.4.17～H30.2.28	178日	49人	48名	98%	1,593人
			計	1,551人	613人	91%	29,668人

施策目標 2－3 「学校支援地域本部事業の推進を図ります」

子どもたちの健全育成を図るため、地域全体で学校を支えることができるよう、学校と地域との連携体制を構築し、学習支援活動や登下校の安全確保のための活動等、地域住民による積極的な学校支援の取り組みを促進し、教員の子どもと向き合う時間の増加や住民等の学習効果の活用機会の拡充及び地域教育力の活性化を図ります。

指標 2－3 A：学校支援地域本部事業の推進

- ・学校支援地域本部会議及び地域教育協議会の開催

指標 2－3 B：地域の人材活用体制の整備

- ・コーディネーターの育成
- ・ボランティアの確保と有効活用、資質向上

指標 2－3 C：学校支援地域本部事業の周知及び広報

- ・学校支援地域本部だよりの発行

【参考資料】

学校支援地域本部会議 事業実績

事業名	実施日	場所	内容等
第1回各地域教育協議会	4月～5月	各公民館等	委嘱状交付
第1回田村市学校支援地域本部会議	5月31日(水)	田村市役所	H28事業計画, 評価等に係る協議, 情報交換等
第1回田村市コーディネーター・担当者情報交換会	5月31日(水)	田村市役所	関係者による情報交換(14名出席)
第1回学校支援実践研修会(県主催事業)	6月6日(火)	郡山市 郡山公会堂	講演, 事例発表, 情報交換等(4名出席)
第2回学校支援実践研修会(県主催事業)	12月14日(木)	鏡石町 鏡石図書館	支援活動参観, 事業概要説明, 事例発表等(8名出席)
フローアップ研修会(県主催事業)	1月24日(水)	須賀川市 須賀川アリーナ	事業概要説明, 講演等(5名出席)
第2回田村市コーディネーター・担当者情報交換会	2月16日(金) ※予定	船引公民館	関係者による情報交換
第2回田村市学校支援地域本部会議	3月20日(火) ※予定	田村市役所	H29事業結果報告, 事業評価, 情報交換等
第3回田村市コーディネーター・担当者情報交換会	3月20日(火) ※予定	田村市役所	関係者による情報交換

支援実績(滝根・大越・都路・常葉・船引地区合計・※H29.9月末)

種別	内容	延べ実施回数	ボランティア延べ人数
学習支援 ボランティア	学習支援(書写・調理実習・体育・ミシン・郷土史など, 卓球・将棋・木工クラブなど, 校外学習引率など)	49回	153名
体験活動 ボランティア	体験活動支援(しめ縄づくり, 野菜栽培・収穫, 郷土食の調理実習, 和太鼓など)	22回	30名
スポーツ ボランティア	部活動支援(野球・卓球・バレーボール・ソフトボール・ソフトテニス・剣道)	351回	365名
図書 ボランティア	図書支援(読み聞かせ, 貸出補助, 図書整理, ポップづくり, 壁面飾りつけなど)	116回	148名
安全指導 ボランティア	安全指導支援(登下校時の見守り, 交通安全指導, 防犯教室, こども園運動会時の見守りなど)	718回	788名
クリーン ボランティア	環境整備支援(校庭整備・除草, 植木剪定, 花壇整備, 修繕など)	28回	283名
イベント ボランティア	学校行事支援(ゲートボール教室, 運動会等イベント時の支援, 授業参観日等の見守りなど)	42回	112名
その他の ボランティア	その他の支援(民話・語りべ)	0回	0名
	合計	1,326回	1,879名

施策目標 2-4 「図書館の機能を充実します」

幼児から高齢者、障害を持つ方にも対応した利用しやすい身近な図書館を目指し、ニーズに対応した蔵書の充実をはじめ、市内外図書館とのネットワーク化、大学図書館などとの相互協力、ユニバーサルデザイン化を進めます。

図書館機能を最大限に活用するため、県内外の事例を参考にしながら、学校図書館への支援や親子で交流する場の創出、ホームページからの貸出予約など効率的な運営管理に取り組みます。

指標 2-4 A : 利用促進に向けた図書館の資料及び機能の充実

- ・ ニーズに合わせた計画的な蔵書の確保
- ・ 貸出予約の利便化
- ・ 年代別図書コーナーの設置
- ・ 自主事業の充実
- ・ 図書ボランティアの育成

指標 2-4 B : 子どもの強く生きぬく力を育むための読書活動の推進

- ・ 第二次田村市子ども読書活動推進計画の実践
- ・ 子どもが利用しやすい館内環境の整備
- ・ 学習支援機能の充実
- ・ 子どもの読書活動にかかわる関係者の資質向上

指標 2-4 C : 図書館事業の周知

- ・ 市民等への広報

【参考資料】

区分	事業名	対象	期 日	場 所	備 考 H30年1月26日現在	
本館	学校支援	市立小中学校	年間	全館	団体貸出1614冊 図書館訪問14回 269名	
	おはなし会ボランティアの育成	ボランティア・市民	年間		おはなし会開催のための人材育成 読み聞かせボランティア連絡会 第1回8月24日・第2回3月13日（予定）開催、ほか随時研修を実施	
	ブックスタート事業	市民	4か月検診（年12回） 10か月検診（年12回） 7ヶ月育児相談日（年6回）	船引保健センター	社会福祉課、保健課と連携し、ブックスタート活動の実施 4か月検診（9回）366名 10か月検診（10回）411名 7ヶ月育児相談日（5回）196名	
	学校支援おはなし会	幼稚園・保育所・小学校等	実施予定年48回	幼3・小7・その他2	おはなし会ボランティアによる読み聞かせ等、44回実施 対象1051名	
	ブックトーク	市立小学校	年42回	小学校11校	小学4年生以上を対象に読書啓蒙活動35回（対象者約570人）	
	ひだまりおはなし会	0歳～2歳と保護者	毎月第2・第4水曜	本館	おはなし会どんぐりによる本の読み聞かせ、わらべうた、手遊び等 16回開催86人参加	
	おはなしの広場（特別おはなし会）	幼児・児童・一般	年3回（夏・冬）	本館	工作等とタイアップしたおはなし会 夏のおはなしの広場（7/22）：42人 夏の怖いおはなし会（8/19）：8人 冬のおはなしの広場（12/16）：40人	
	大人のためのおはなし会	学生・一般（15名～20名）	7/2（日） 11/26（日） 3/8（日）予定	本館	絵本の読み聞かせ、朗読、素語りなど 第1回（7/2）6名、第2回（11/26）7名	
	老人会出張おはなし会	一般（老人会）	随時	本館	社会福祉協議会より一人暮らし高齢者の会食会6/22（37名）、7/13（50名）、7/27（29名） 文珠長寿会6/24（23名）	
	めざせ！図書館員講座	市内小・中学生（10名以内）	7月～3月（全10回） 1講座2時間	本館 常葉分館（第6回のみ）	図書館の仕事を通して学校図書館や地域で利用の推進者となる人材を育成する 受講生9名	
	こども語り手養成講座	市内小・中学生	6月～9月	本館	地域に伝わる昔話を伝承する若い人材の育成 受講生7名、4回実施、「おはなしフェスタ」で発表、横浜市での発表会（12/17・3/14）	
	読み聞かせ講座（こどもの読書週間）	一般	4/25（火） 5/9（火）	本館	こどもの読書週間に合わせて実施し、読み聞かせや絵本について学ぶ講座、受講12名	
	講師派遣	依頼先による	随時	各依頼先	依頼対応（市立幼・保・こども園、県中教育事務所、会津教育事務所）講師派遣 市内4回、県主催2回	
	おはなしフェスタ	一般・学生・生徒・児童・乳幼児	10/8（日）～9（月）	文化センター等	地域の読書推進活動を支援し、醸成を目指すもの。絵本作家の講演と分科会の実施、参加者およそ350名	
	滝根	おはなし会（滝根）	乳幼児・保護者 小学校低学年	年11回	滝根公民館	担当者及びボランティアによる読み聞かせ 交流館1回26名、滝根小学校12回392名 滝根幼稚園1回39名、公民館5回19名 特別おはなし会2回37名 保育所2回54名
		学校支援おはなし会（滝根）	乳幼児・保護者 小学校低学年	年間	三世代交流館・保育所・幼稚園・小学校	
	大越	おはなし会（大越）	乳幼児・保護者 小学生低学年	年7回	大越公民館	担当者及びボランティアによる読み聞かせ 公民館6回174名 こども園 預かり1回32名、教育部6回179名、 保育部8回233名
		学校支援おはなし会（大越）	保育園児 小学校	年10回 随時	大越こども園 大越地区小学校等	
	都路	学校支援おはなし会（都路）	こども園（保育部）	年10回	都路こども園	担当者及びボランティアによる読み聞かせ こども園 児童館8回328名 保育部7回75名 幼児教育部7回113名
こども園（幼児教育部）			年10回			
こども園（児童館）			年10回			
特別おはなし会（都路）	幼児・児童・一般	年2回（夏・冬）	都路公民館	工作等のお楽しみ会とおはなし会 8月7日開催15名参加		
常葉	おはなし会（常葉）	乳幼児・保護者	毎月第3水曜	常葉公民館	担当者及びボランティアによる読み聞かせ 小学校22回498名 保育所12回374名 幼稚園2回70名 公民館10回10名	
	学校支援おはなし会（常葉）	幼稚園・保育所・保育園・小学校等	月2回	常葉保育所		

3 芸術文化活動の推進

施策目標 3-1 「芸術文化活動の推進を図ります。」

質の高い芸術文化や伝統文化に日ごろから親しむことで、心豊かな人間性を育みます。また、市民が地域の芸術文化の担い手となり、地域文化の創造を通じて地域を活性化する活動を支援します。

指標 3-1 A : 芸術文化活動への支援

- ・ 芸術文化団体への支援
- ・ 各地区文化祭・芸能祭への支援

指標 3-1 B : 質の高い自主文化事業等の実施

- ・ 文化センター運営協議会の開催
- ・ 小中学校芸術鑑賞教室の開催
- ・ 市民による身近な芸術文化の提供
- ・ 市民等への広報

【参考資料】

小・中学生芸術鑑賞教室実績

事業名	実施月日	回数	対象学年	参加者数(引率者含む)
小学生芸術鑑賞教室 「影絵劇 注文の多い料理店&影絵教室」	6月1日	2	5・6年生	623人
中学生芸術鑑賞教室 「能楽教室」	7月6日	1	2年生	359人

次代を担う子どもの文化芸術体験事業実施校

事業名	学校名	実施月日	公演・体験内容
巡回公演事業 (4校応募で1校採択)	滝根小	9月28日	バレエ
	常葉中	8月4日	声楽
派遣事業 (4校応募で4校採択)	滝根中	8月18日	声楽
	都路小	10月3日	和太鼓
	船引小	10月3日	ヒップホップダンス

文化センター自主文化事業実績

事業名	実施月日	回数	入場者数
THE BLOCK PARTY in TAMURA (クラブイベント・ライブ)	2月18日	1	280人
WASABI コンサート (和楽器ユニット)	3月4日	1	423人

4 文化財の保護と継承

施策目標 4-1 「文化財の保護と継承を推進します。」

貴重な郷土の財産である文化財に対する市民の関心を高めながら、歴史資料の保存や発掘、無形民俗文化財を伝承する人材の育成などを推進します。

指標 4-1 A : 文化財の保存と継承

- ・文化財保護審議会の開催と県文化財保護指導者研修会への参加
- ・指定文化財の防災訓練と防火査察の実施
- ・指定文化財の周知
- ・民俗文化の保存と伝統芸能の継承
- ・田村市史シリーズの継続発行

指標 4-1 B : 歴史民俗資料館の活用と文化財資料館の整備

- ・歴史民俗資料館の活用促進
- ・文化財資料館の整備検討

5 スポーツレクリエーション活動の推進

施策目標5-1「スポーツ振興の推進を図ります。」

市民の健康増進・体力向上のために、スポーツ活動の拠点となる運動公園内の施設を利用した室内外の競技スポーツ交流人口の拡大と「市民がスポーツをする」機会を増やし、スポーツの盛んな明るい地域社会づくりを図ります。

また、公式大会を誘致し、市民が身近で「スポーツを見る」楽しさに目覚め、「スポーツをする」契機に発展していけるように推進を図ります。

指標5-1A：運動公園内の施設によるスポーツ交流人口の拡大

- ・県内外からの高校、大学の合宿誘致
- ・県レベル各種大会の誘致
- ・施設のPR
- ・クロスカントリーコースの利活用

指標5-1B：田村富士ロードレース大会への参加者の拡大と推進

- ・学校・スポーツ少年団との連携による参加者の拡大

指標5-1C：ふくしま駅伝の参加並びに記録への挑戦

- ・年間を通じた質の高い練習、スタッフの確保
- ・田村市チーム運営の委託契約

指標5-1D：小中学生を対象としたスポーツ大会・講習会等の開催

- ・ソフトボール大会、駅伝大会等の開催
- ・スポーツ教室の開催

指標5-1E：指導者対象の研修会、講習会の開催

- ・スポーツ推進員研修会・講習会
- ・スポーツ講演会の開催

【参考資料】

運動公園 合宿利用実績(H29)

施設	団体
総合体育館	東京都 明治学院東村山高校バドミントン部 (2回：8日)

運動公園 県大会等利用実績(H29)

施設	大会名
総合体育館	福島県空手道選手権大会(1日)
	福島県選手権大会バレーボール競技(1日)
	JA福島県職員連盟バレーボール大会(1日)
	太田総合病院理事長杯バレーボール大会(1日)
	福島県養護軽費老人ホームケアハウス連絡協議会輪投げ大会(1日)
	福島県中学校新人卓球大会(1日)
	福島県ミニバスケットボール選抜セレクション(1日)
	U12・U13エンデバーバスケットボール大会(1日)
	福島県中学生インドアソフトテニス大会 (1日)
	福島県ジュニアバスケットボール選手権大会(1日)
	近県選抜中学生インドアソフトテニス大会【男子】(1日)
	近県選抜中学生インドアソフトテニス大会【女子】(1日)
	第70回福島県総合体育大会県民スポーツ大会県中地域大会【バドミントン】(1日)
	福島県フライングディスク大会(1日)
陸上競技場	2020東京オリンピック選手権育成協会事業(12日)
	福島県U13サッカーリーグ(1日)
	福島県障がい者フライングディスク大会(1日)
	福島県復旧復興祈念ユースサッカー大会(2日)
	全日本高等学校女子サッカー選手権福島県大会(2日)
	LinkTOHOKU自転車レース(1日)
	OEN+NATION+MUSIC CIRCUS(1日)
多目的運動広場	国体記念成年男子2部ソフトボール福島県大会(2日)
	第70回福島県総合体育大会県民スポーツ大会県中地域大会【壮年ソフトボール】(1日)

クロスカントリーコース利用実績(H29)

大会等	たむらクロスカントリー大会
	田村富士ロードレース大会ウォークの部
	田村市陸上教室(ふくしま駅伝強化練習)
トレーニング	船引中、移中、三春中、ふくしま駅伝田村市チーム、田村市陸協、田村高校、小野高、川内中、富田中、大越中、岩江中、船引南中、都路中、常葉中、滝根中、葛尾中、西田中、船引歩く友の会、帝京安積高、尚志高、日大工学部、ひらた清風中、安積高、安積黎明高

田村富士ロードレース大会申込者（地域別）

年度	市内	市外	県外	合計	完走者
H29	944	298	30	1,272	1,124
H28	919	230	45	1,194	1,075
H27	966	287	49	1,302	1,144
H26	931	334	67	1,332	1,135
H25	1,012	337	105	1,454	1,273

田村富士ロードレース大会申込者（部門別）

年度	小学生	中学生	高校	一般	親子	ウォーク
H29	278	353	55	179	338	69
H28	254	308	48	241	268	75
H27	298	323	62	270	268	81
H26	257	359	70	299	252	95
H25	349	376	48	297	314	70

市町村対抗福島県縦断駅伝競走大会成績

年度	記録	市の部	総合の部
H29	5時13分15秒	5位	7位
H28	5時11分48秒	5位	5位
H27	5時13分07秒	6位	6位
H26	5時11分38秒	5位	5位
H25	5時13分51秒	7位	7位

青少年スポーツ大会実績(H29)

大会名	参加チーム数	参加者数
あぶくま洞大多鬼丸旗争奪児童ソフトボール大会	83	1,800名
都路町グリーンパーク杯争奪ソフトボール大会	24	850名
都路町グリーンパーク杯争奪バレーボール大会	24	650名
ビートル駅伝大会	59	585名

講習会等実績（H29）

講習会等名	会場	参加者数
震災復興支援市民ふれあい卓球教室	大越体育館	150名
田村市・中野区スポーツ交流会	田村市総合体育館 常葉運動場	90名

田村市の将来像 「あぶくまの人・郷・夢を育むまち ～はつらつ高原都市 田村市～」
 田村市教育委員会基本方針 「未来を担う人づくりのまち」

地域が育て 地域で育つ市民参加の教育

■は今年度重点施策

6 教育行政の円滑な推進と効率的運営

① 教育委員会の活性化を図ります。

(1) 開かれた教育委員会

- 教育委員会の透明性を高める取組
 - 所管事務の調査、施設等の視察
 - 意見交換会の開催
 - 会議運営の工夫、内容の公表

(2) 教育委員会施策の重点化

- 教育推進プログラムの重点化と自己評価
 - ダイジェスト版の策定
 - 施策の自己評価

(3) 外部評価と公表

- 外部評価委員による評価及び公表
 - 外部評価委員会の定期開催
 - 評価結果の議会報告とホームページ掲載

② 教育環境の整備・充実を進めます。

(1) 田村市長期総合計画に基づく校舎及び園舎等の整備

- 教育活動の場にふさわしい環境の整備
 - 要望や状況をふまえた計画的な修繕
- 施設の耐震化の推進
 - 校舎及び体育館の計画的な耐震化工事

(2) 学校の安全管理と事故防止

- 児童生徒の安全な学校生活のための環境整備
 - 安全点検後の迅速な修繕
 - 防火管理体制の評価
 - 通学路の点検及び危険箇所への対応

(3) 児童生徒の通学支援

- 児童生徒の通学支援
 - 遠距離通学児童生徒への通学支援
 - 自転車通学への通学支援



③ 教育予算を効果的・効率的に執行します。

(1) 教育予算の効果的運用

- 田村市財政計画をふまえた効率的な予算執行
 - 教育大綱に基づく重点事業の設定
 - 予算編成ヒアリングの実施

④ 人材育成を推進します。

(1) 高校生・大学生の就学支援

- 奨学制度の効果的な運営
 - 奨学制度の周知

(2) 高校生の海外留学支援

- 海外留学支援制度の周知
 - 海外留学支援制度の周知

⑤ 教育効果を高めるための学校規模の適正化を進めます。

(1) 少子化に伴う複式学級解消に向けた学校規模の適正化推進

- 学校規模の適正化推進
 - 各地域の現状把握



[田村市の教育 10 のキーワード]

- ①安全・安心（危機管理）
- ②共生と連携と評価の時代（教育の道しるべ）
- ③実践と点検・検証（教育活動の原理原則）
- ④真実は相手が理解してはじめて真実になる（説明責任・結果責任）
- ⑤心身を養えば学力は伸びる（知・徳・体のとらえ）
- ⑥基礎・基本（学力向上の基盤）
- ⑦当たり前のことを当たり前にして当たり前に行動する（行動基準）
- ⑧感動と共感と感化（情操の育成）
- ⑨愛郷心（語り継ぐ田村の教えと郷土への誇り）
- ⑩市民参加の教育づくり（地域連携の強化と地域教育力の向上）

3 教育振興推進プログラムダイジェストⅢ（教育総務課所管事業）

6 教育行政の円滑な推進と効率的運営

施策目標6-1：「教育委員会の活性化を図ります。」

指標6-1A：教育委員会の透明性を高める取組

- 所管事務調査、施設等の視察の実施、9月に「たむら支援学校春山校」の視察を実施、11月に4月に統合した田村市立都路小学校と田村市学校給食センターの視察を実施した。

 - 意見交換会の開催計画
会議資料の事前配布や会議における説明の効率化。会議内容をホームページで公表

 - ・ 教育委員会開催は、定例会12回、臨時会3回、施設訪問2回実施。

 - ・ 委員会討議・課題テーマ一覧
- ① 教育委員会の事務に関する点検評価のあり方
 - ② 田村市立移中学校の閉校準備
 - ③ 大越小学校敷地造成事業の進捗状況
 - ④ 要保護及び準要保護児童生徒の認定
 - ⑤ 各地区で開催している小学校水泳大会の記録や順位
 - ⑥ 田村市生涯学習等複合施設整備基本構想策定の状況
 - ⑦ 学校給食センターの運営方針と食育計画
 - ⑧ 全国学力・学習状況調査結果の公表
 - ⑨ 給食費及び奨学資金の未納者に対する対応
 - ⑩ めだかの学校の運営方法等
 - ⑪ 学校支援地域本部、各地域教育協議会の状況
 - ⑫ 今後の児童・生徒数の推計
 - ⑬ 田村市中学校海外派遣研修事業

教育委員会の所管事務の調査、施設や教育活動等の視察状況

月 日	事 業 名	場 所
4月 6日	市立小・中学校入学式、始業式	各小・中学校
4月10日	市立幼稚園・こども園入園式	各幼稚園・こども園
4月28日	第1回田村市総合教育会議	田村市役所
5月11日	中体連田村支部陸上競技大会	市陸上競技場
5月31日	中体連田村支部大会（～6月1日）	市総合体育館ほか
7月25日	第12回田村市小学校水泳大会	大越つつじヶ丘プール 船引小学校プール
7月26日	市町村教育委員会連絡協議会田村支会研修会	小野町多目的研修集会施設
7月31日～8月1日	田村市小学生サマースクール「先輩と学ぼう」	各中学校区内の小学校
8月 5日	田村市少年の主張大会	市文化センター
8月22日	県市町村教育委員会連絡協議会教育委員研修会	福島テルサ
9月 1日	県市町村教育委員会連絡協議会県中ブロック研修会	郡山市立湖南小・中学校
9月 1日	中体連田村支部駅伝競走大会	市陸上競技場
9月13日	田村市小学校陸上競技大会	市陸上競技場
9月29日	第1回教育委員会所管施設訪問	たむら支援学校春山校
9月27日	中体連支部新人大会（～28日）	市総合体育館 ほか
10月15日	第35回田村富士ロードレース大会	市陸上競技場
11月16日	第8回田村地方交通安全大会	三春交流館「まほら」
11月16日	田村市小学校童謡・唱歌音楽祭	市文化センター
11月19日	第29回福島県縦断駅伝競走大会	白河～福島
11月20日	第2回教育委員会所管施設訪問	都路小学校 学校給食センター
1月 7日	平成30年田村市成人式	市文化センター
1月11日	平成30年田村市立志式	市文化センター
2月15日	平成29年度田村市教育実践報告会	市文化センター
3月13日	田村市立中学校卒業式	各中学校
3月15日	第2回田村市総合教育会議	田村市役所
3月16日	田村市立幼稚園・こども園卒園式	各幼稚園・こども園
3月18日	第2回たむらクロスカントリー大会	田村市クロスカントリーコース
3月23日	田村市立小学校卒業式	各小学校
3月23日	田村市立移中学校閉校式	移中学校
3月29日	田村市教育委員会表彰式	田村市役所

指標 6-1B：教育推進プログラムの重点化と自己評価

- 教育大綱ダイジェスト版の策定
- 課内での施策に対する自己評価の実施

指標 6-1C：外部評価委員による評価及び公表

- 外部評価委員会の前期・後期開催、臨時打合会の開催
- 外部評価委員会委員の評価、評価結果の議会報告、ホームページ掲載

施策目標 6-2：「教育環境の整備・充実を進めます。」

指標 6-2A：教育活動の場にふさわしい環境の整備

- 要望や現状を踏まえ計画的修繕の実施
常葉小学校トイレ洋式化工事、滝根中学校高架水槽改修工事、大越中学校
進入路拡幅工事

指標 6-2B：施設の耐震化の推進

- 施設の耐震化については、学校及び幼稚園のあるべき姿を見据えた計画の立案に基づき、耐震診断結果の優先順により、滝根中学校耐震補強事業、船引南小学校屋内運動場耐震補強事業実施設計委託、滝根幼稚園改築事業設計等委託

指標 6-2C：児童生徒の安全な学校生活のための環境整備

- 通学路の点検及び危険個所への対応については、交通事故防止並びに安全対策のため、通学路安全推進会議設置要綱に基づき、通学路危険個所の把握、関係機関との合同現地調査、通学路安全推進会議の開催による関係機関との協議、スクールバス試乗による安全確認の実施

指標 6-2D：児童生徒の通学支援

- 遠距離通学児童生徒への通学支援として、補助金交付の継続
- 自転車通学への通学支援として、ヘルメット購入補助の継続

施策目標6-3：「教育予算を効果的・効率的に執行します。」

指標6-3A：田村市財政計画をふまえた効率的な予算執行

- 教育予算の効果的運用のため、時期を失することなく早期に執行
- 予算編成ヒアリングの実施や教育大綱に基づく重点事業の設定を行い、次年度に向けた効果的な教育予算を要求

施策目標6-4：「人材育成を推進します。」

指標6-4A：奨学制度の効果的な運営

- 奨学制度の周知は、田村市内中学校や田村市の高校生が在籍する高校への制度案内依頼
- 広報紙、ホームページ掲載
本年度貸付者は、15名（うち本年度新規貸付者6名）
（高校1名、短大1名、大学10名、専門学校3名、）
本年度貸与年額は678万円
- 給付型奨学金制度を創設し、平成30年度から開始するため、申し込みを受付し6件の問い合わせがあり、2名の該当者があった。
2名については、面接と作文による選考試験を実施。

指標6-4B：海外留学支援制度の周知

- 海外留学支援制度は、猪狩俊郎人材育成基金による高校生の海外留学支援で、1年間のアメリカ留学に対する渡航費、学費、滞在費への助成であり、現在まで2名の実績はあるものの、最近2年は応募者がなかったが、今年度は1名の応募があり、現在留学中である。
 - ・留学先 アメリカ ウィスコンシン州ウィリアムズベイハイスクール
 - ・期間 平成29年8月～平成30年6月
- 田村市の高校生が在籍する高校への周知依頼
- 中学生海外派遣研修参加者へのチラシ配布による周知
- 広報紙、ホームページへの掲載

施策目標6-5：「教育効果を高めるための学校規模の適正化を進めます。」

指標6-5A：学校規模の適正化推進

○ 各地域の今後の児童生徒数の推計

児童数推計

区分	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度	平成35年度
滝根小	197	180	164	158	151	143	135
大越小	194	181	182	183	175	171	152
都路小	57	60	54	56	61	58	54
関本小	54	56	45	39	32	28	27
常葉小	131	129	135	131	135	135	124
西向小	58	61	59	61	59	61	61
芦沢小	54	50	46	40	46	44	39
船引南	98	98	98	100	94	91	95
船引小	693	692	691	666	665	627	604
美山小	56	51	48	50	46	50	52
緑小	45	48	45	46	47	55	53
瀬川小	36	34	38	36	38	39	39
要田小	49	48	51	47	52	47	52
計	1,722	1,688	1,656	1,613	1,601	1,549	1,487

生徒数推計

区分	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度	平成35年度
滝根中	130	126	120	105	103	97	98
大越中	107	104	101	101	97	88	93
都路中	58	51	43	31	26	25	26
常葉中	146	140	130	123	128	120	120
船引南中	79	72	72	74	78	78	78
船引中	431	440	421	415	412	439	448
移中	23	—	—	—	—	—	—
計	974	933	887	849	844	847	863

- 移中学校の船引中学校への統合
 - ・ 閉校式開催及び準備
 - ・ 移中学校閉校準備会議開催状況

月 日	会 議 名	場 所
平成29年10月 3日(火)	移中学校統合準備委員会設立総会	北移南移 コミュニティプラザ
平成29年10月12日(木)	移中学校統合準備委員会 (第1回 PTA・通学路小委員会)	北移南移 コミュニティプラザ
平成29年10月25日(水)	移中学校統合準備委員会 (第1回 閉校準備小委員会)	移中学校会議室
平成29年11月 1日(水)	移中学校統合準備委員会 (第2回 PTA・通学路小委員会)	北移南移 コミュニティプラザ
平成29年11月 2日(木)	移中学校統合準備委員会 (PTA・通学路小委員会スクールバス運行経路試走)	移地区内
平成29年11月 7日(火)	移中学校統合準備委員会 (閉校準備小委員会記念誌作成作業)	移中学校会議室
平成29年11月14日(火)	移中学校統合準備委員会 (閉校準備小委員会記念誌作成作業)	移中学校会議室
平成29年12月25日(月)	移中学校統合準備委員会 (閉校準備小委員会記念誌作成作業)	移中学校会議室
平成30年 2月16日(水)	移中学校統合準備委員会 (閉校準備小委員会記念誌作成作業)	移中学校会議室
平成30年 2月21日(水)	移中学校統合準備委員会 (第2回 閉校準備小委員会)	移中学校会議室
平成30年 2月27日(火)	第2回移中学校統合準備委員会	移中学校会議室

- ・ 移中学校から船引中学校への引っ越し

- P T A、地区住民等に対し現状等の説明
 - 常葉地区（西向小学校、関本小学校、常葉小学校）
 - 船引地区（芦沢小学校）

～ IV 外部評価委員より ～

S+:目標を大幅に上回る成果をあげた S:目標を上回る成果をあげた A:おおむね目標を達成した B:業務に支障はないが、目標は下回った C:目標を大幅に下回った

施策	内部評価	外部評価
<p>知識・技能や思考力・判断力・表現力、学習意欲等の「確かな学力」を確立します。</p> <p>(1) 学力向上の支援</p> <p>■活用力を育成する授業の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ○言語活動を充実する学習過程の工夫 ○授業改善チェックシートの計画的活用 ○定着確認シートの活用 <p>□学習規律、学習習慣の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ○授業での学習規律の定着と学び方の指導 ○保護者シラバス・プログラムの推進 ○家庭学習の点検と定着 <p>■幼・小・中・高連携による取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ○連携推進会議 ○小・中連携(中学校区) ○中・高連携 ○小・中9年間をつなぐ加わり ○幼小中連携推進ステップアップ支援事業 ○小学生がマースクール「先輩と学ぼう」 <p>□学力実態調査の結果分析と活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ○田村市学力調査(NRT、中学生新入生) ○全国調査、福島県調査 <p>(2) 英語が使える人材育成</p> <p>□国際社会に対応した教育の体系的な実践</p> <ul style="list-style-type: none"> ○小学生英語活動集中プログラム ○小学校英語活動充実のためのALT派遣 ○中学生夏季英語研修 ○中学生海外派遣研修事業 ○各中学校専任のALT派遣 	<p>○学力向上推進会議の活性化を図るため、全国学力調査結果から得られた指導改善のポイントを各校担当者に伝えて共有化を図った。(指標1-1A~E)</p> <p>●学力調査の結果、中学校数学への取組に課題が残った。授業スタンダード等を活用した日々の授業の質的向上を図る研修を一層充実させていく必要がある。(指標1-1A~E)</p> <p>○授業研究会については各学校及び各中学校区単位の自主的な取り組みを重視して、積極的に実施する環境整備に努めた。また、市教委の推奨する「主体的・対話的で深い学び」の授業研究会を外部講師を招いて実施した。(福島大附属中教諭、県中教育事務所指導主事)(指標1-1A~E)</p> <p>○小学生サマースクールでは、講師と児童との温かい人間関係のもと、習熟度別指導を取り入れ、個に応じた指導を実施することで、夏季休業中の家庭学習への意欲付けを図った。</p> <p>○小6の英語活動集中プログラム、中学生を対象の夏季語学研修や海外派遣研修など系統性を重視した施策を推進した。また、全校にALTを派遣して英語に親しむ環境作りに努めた。英語に対する学習意欲の醸成と学力向上が図られている。(指標1-1E)</p>	<p>A 学力向上グランドデザインのもと、学力向上に対する共有化を図り、実効を上げている。</p> <p>学力テストの結果を一人ひとりの児童生徒の力となるよう取り組んでほしい。</p> <p>先進県秋田県の学力向上の取り組みに負けない取り組みのため、指導主事が先生方へのコーディネーターになってがんばってほしい。</p> <p>学力については、各学年や個人の差もあり長い目で続けていく必要がある。全体も大切だが個人が確実に実力をつけ、積み重ねられるようサポートしてほしい。</p> <p>A 英語教育増々充実してきており、今後も先進的な活動に誇りをもって取り組んでください。</p> <p>ALTの方と生徒がより交流できる雰囲気作りがほしい。</p> <p>使っている英語を聞けるのはとてもいいこと。</p>
<p>規範意識を養い、豊かな心と健やかな体を育成します。</p> <p>(1) 道徳教育の充実</p> <p>□「田村っ子のルール10」の実践</p> <p>□道徳教育推進教師を中心とした指導体制の充実</p> <p>■道徳の時間の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「心の教育」資料集の活用 ○地域人材の積極的活用 ○国、県資料の活用 <p>□道徳実践力の育成</p> <p>(2) 体格・体力の向上の支援</p> <p>■体育の授業と体育的行事の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「運動身体づくりプログラム」の実践 ○業間等を利用した運動の推進 ○体力・運動能力等調査の結果分析と活用 <p>□小学校水泳・陸上大会の実施</p> <p>(3) 健康教育の推進</p> <p>□食育に関する研修や授業の充実</p> <p>■健康教育に関する指導の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ○薬物乱用防止教室等の開催 ○歯科保健教室、思春期保健教室の開催 <p>□放射線教育の推進</p>	<p>○平成30年度からの教科化に向けて、道徳教育推進委員会を中心として、各学校における道徳教育がより一層推進されるように定期的に委員会を開催した。道徳の授業研究会を実施し意見交換を行うことで、道徳の実践意欲が高まった。(指標1-2①A~B)</p> <p>○肥満傾向出現率が全国を上回っている。体力は、各学年とも全国よりも下回る種目が多い。体力向上への取り組みを今後とも強化する必要がある。体育の授業充実とともに日常の運動量の確保を検討していきたい。(指標1-2②A~C)</p> <p>○う歯の保有率や処置率の改善のため、フッ化物洗口事業を小学校全校・幼稚園・保育所で実施した。希望制であるが、実施率は小学校が97.1%、幼稚園・こども園99.5%である。</p>	<p>A 当たり前のことを丁寧に実践していることがすばらしい。意識づけを継続してお願いしたい。</p> <p>道徳の実践化への努力をこれからもお願いします。</p> <p>意欲のある笑顔で元気な子どもが満ちている学級づくり、学校づくりを今後も期待します。</p> <p>B 早寝早起き朝ごはんなど、生活習慣を身につけ、体格・体力向上を進めてほしい。</p> <p>家庭との連携も欠かせない。業間、外に出て運動している姿を見られるようになってきた。</p> <p>B う歯をなくすなどの日常化(生活化)への努力を今後もお願いしたい。</p>

学校教育の充実

<p>(4) キャリア教育の推進 <input type="checkbox"/>9年間を見通したキャリア教育の充実 <input type="checkbox"/>勤労・職業体験活動の充実</p> <p>(5)特色ある教育活動の推進 <input type="checkbox"/>伝統や文化に関する教育の充実 <input type="checkbox"/>伝統文化学習担当者会 <input type="checkbox"/>童謡・唱歌音楽祭 ○立志式 <input type="checkbox"/>読書活動推進計画の作成と実践 <input type="checkbox"/>読書習慣づくり <input type="checkbox"/>学校図書整備・充実 <input type="checkbox"/>市図書館データベースの活用 <input type="checkbox"/>防災教育の推進 <input type="checkbox"/>環境教育と学校緑化の推進 <input type="checkbox"/>人権教育の充実とJRC活動の推進</p>	<p>○福祉施設等の訪問学習や職業体験学習を教育課程に位置づけ、望ましい職業観や勤労観をもたせ、進路指導に生かすことができた。</p> <p>○童謡・唱歌音楽祭は、地域住民による民話の語り部にも協力いただき、充実した音楽祭となった。(指標1-2①C) ○立志式では市内中学2年生340名に立志証書を授与した。また、「命をつなぐ～被災犬をセラピードッグへ～」と題して国際セラピードッグ協会代表大木トオル氏による記念講演を実施し、今後の進路決定や目標実現に向けた啓発の機会となった。 ○常葉中学校区が県教委からの人権教育の指定を受け、地域の特色を生かした授業や活動を公開し、人権を尊重することの大切さについての理解を深めることができた。</p>	<p>A 夏休みに福祉施設でのボランティアに参加した。中学2年生にとっても、まだまだ役に立つことは少ないが、一緒に働くことが良い経験になったようだ。</p> <p>中学生が主であるが、小学生の意識付けも大切。</p> <p>A すばらしい企画と運営で意義ある音楽祭、立志式、陸上、水泳大会など継続的に取り組んでいただきたい。</p> <p>人権教育を青少年赤十字の活動と結び付け、学校生活全体の中で取りくまれてもよいのではないかな。</p> <p>立志式では、生徒たちが真剣に参加していて、見ていて気持ちがよかった。参加した中学生は、大木トオルさんの話が衝撃的だったようだ。メモを多く取っていて、生き方やこんな職業があるのかなど学んだようだ。</p> <p>意義がある事業であった。工夫して継続してほしい。</p> <p>読書は大事。コミュニケーション能力を高めるにも読書の時間の確保が大切。</p>
<p>学校教育の充実</p> <p>教職員の資質の向上を図ります</p> <p>(1) 教職員の指導力の向上 ■学力向上推進会議の充実 <input type="checkbox"/>学力向上推進会議 <input type="checkbox"/>学力向上推進委員・学校教育指導委員の研修 <input type="checkbox"/>市全体及び中学校区単位の授業研究会 <input type="checkbox"/>授業改善のための定着確認シート活用研究</p> <p><input type="checkbox"/>各種研修会の充実 <input type="checkbox"/>転入教職員研修会 ○講師研修 <input type="checkbox"/>小学校英語担当者B・H研修 <input type="checkbox"/>小・中英語担当者とALTの合同研修 <input type="checkbox"/>いじめ・不登校対策研修会 <input type="checkbox"/>食育推進コーディネーター・学校栄養職員研修 <input type="checkbox"/>養護教諭研修会○幼稚園教諭等研修会 <input type="checkbox"/>情報IT指導者研修会 <input type="checkbox"/>中学校武道充実のための講師派遣</p> <p>■計画訪問等による授業力向上の支援 <input type="checkbox"/>指導訪問・要請訪問 <input type="checkbox"/>校内研修等への支援</p> <p><input type="checkbox"/>日常的な授業改善への支援 <input type="checkbox"/>授業改善チェックシートの計画的活用(再) <input type="checkbox"/>学力向上だより・指導資料の配付</p> <p><input type="checkbox"/>教育の情報化対応の充実 <input type="checkbox"/>ICT機器の有効活用に関する研修 <input type="checkbox"/>情報IT教育の充実と保護者への啓発</p> <p>(2) 服務・倫理の確立 ■教職員の不祥事根絶と勤務の適性化 <input type="checkbox"/>校内相談体制の構築 <input type="checkbox"/>体罰・セハラ絶無のための研修 <input type="checkbox"/>教職員の勤務実態の適正化と健康増進</p>	<p>○学力向上推進委員と学校教育指導員による秋田県東成瀬村小中学校を訪問し、先進的な取組や小中連携を基盤とした学力向上対策についての研鑽を深めることができた。 ○福島大学附属小学校教諭を招聘しての示範授業を実施し、本市の課題である「考えを深め、学び合う算数・数学の指導方法」についての研修を行った。</p> <p>○各種研修会では、県義務教育課指導主事、県中教育事務所指導主事、さらに、専門的知見をもつ講師を招聘し、質の高い研修開催に努めた。特に「特別の教科道徳」や英語及び外国語活動は、新学習指導要領の移行期に向け、研修によって教員の専門性を高めることができた。</p> <p>○指導訪問・要請訪問については、可能な限り複数の指導主事を派遣し、教職員の指導力の向上に向けた指導助言にあたった。特に、要請訪問では研究授業前に指導案検討を行ったり、一校に継続的に複数回訪問したりすることによって、指導助言の効果が上がった。(指標1-3A)</p> <p>○不祥事防止・根絶に向け、田村市服務倫理対策委員会を開催し、不祥事防止の方策についての共有化を図った。今後、内容充実に努めていきたい。 また、各校から行動計画を提出させ、田村市からは不祥事を出さない意識を高めるようにした。さらに教職員一人一人に当事者意識を高めさせていく必要がある。(指標1-3B)</p>	<p>A 先進県秋田の教育視察を、小・中学校で共有化を図り自校の実態に合わせ、取り組む姿勢に大いに期待したい。</p> <p>授業充実のための研修の取り組みは素晴らしい。</p> <p>市指導主事の指導の場と機会を拡大し、先生方と密なる活動を期待したい。</p> <p>B 何よりも教師同志の笑顔と信頼感をつかって子どもと向き合ってほしい。</p> <p>交通事故はいつ、どこで起こるか分からないので、通勤時の安全運転について教職員への指導もお願いしたい。</p>

施策の点検・検証を行うとともに、学校の運営体制を支援します。

(1) 施策・事業等の評価

- 教育振興推進プログラムの着実な実践と評価
- 教育実践成果の積極的な公表
 - 教育実践報告会の開催
 - 教育委員会ホームページ等による広報活動の充実

○教育実践報告会において、小中連携の取組、常葉地区人権教育の報告、学力向上の取組の発表のほか、学校教育指導委員による授業実践と先進地研修視察を踏まえたパネルディスカッションを行った。参加した教職員、保護者そして一般参加者に対し、市施策の進捗状況を周知する機会とすることができた。

A 年々「教育実践報告会」、短時間であるが充実してきている。
各学校に持ち帰り話し合う時間をもって、より深めてほしい。

先生方が情熱を持って子供たちと向き合ってくれているのが分かった。
報告会にはもっと多くの保護者の方にも聞いてほしいと思った。
船引小学校の先生の発表は動画など上手に使ってわかりやすく興味を持てた。聞いた人が帰る時にはこのプログラムを少し理解し、協力者となってもらう工夫があればもっと良いのでは。
報告会が終わったあと、短時間で感想を書き込める人は少ないと思う。
もう少し答えやすい設問の後に、自由記入欄があってもよかったと思う。

実践報告会に参加させていただき学校及び先生方の努力を感じました。

(2) 開かれた学校づくり

- 教育活動の積極的な公開
 - 学校だよりの発行
 - ホームページ活用等による情報発信
 - 学校へ行こう週間の実施
- 学校評価による学校運営の充実
 - 学校評議員の委嘱と学校運営への参加
 - 学校評価の公表と学校関係者評価の充実

○どの学校もホームページを毎日更新することで、学校の教育活動を積極的に発信している。

A ホームページの工夫がみられる。 A

○PDCAサイクルを機能させるように、内部評価及び外部からの評価をもとに、学校経営の改善に生かす取組が見られた。

学校評議員の活動を、学校の教育活動の充実、地域教育力の活性化へつなげてほしい。

(3) 地域教育力の活性化

- 地域ボランティアの積極的な活用
 - 学校支援地域本部事業との連携
 - 小学生サマースクール(再)
- 田村市の教育10のキーワード

○学校支援地域本部事業と連携し、授業や学校行事に対し、地域の方や保護者がボランティアとして協力し、成果を上げている。また、地域の産業等の見学学習なども積極的に行われ、取組が充実してきた。

A 学校支援地域本部と学校サイドとの協働があればさらに充実する。 A

地域と学校と一体化して進めてほしい。

幼児期における教育を推進します。

(1) 保・幼・小の連携強化

- 保幼小連携による幼児教育の推進
 - 「田村市公立幼稚園共通カリキュラム」
 - 「たむらっ子はくくみステップ」の実践
 - 保・幼一元化に基づく教育の充実
 - 小学校入門期指導の充実

○「小学校入門期指導の手引き」の活用を図るとともに、推進委員会を3回開催した。2回目は、県中教育事務指導主事を招聘した合同研修会を開催することで、平成30年度から完全実施となる幼稚園教育要領について研修することができた。(指標1-5A)

A 保・幼と小学校の協力・共通理解の努力に感謝。 A

(2) 幼児教育の保護者負担の軽減

- 市立幼稚園の保護者負担金の無料化

○幼児教育の保護者負担軽減は引き続き実施していく。

A 私立幼稚園との関係を密にする工夫を続けてほしい。 A

学校教育の充実	<p>一人ひとりのニーズに対応した教育を推進します。</p> <p>(1) 特別支援教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> □特別支援教育支援員の配置と研修 □特別支援教育「データー」研修の充実 □通級指導教室の充実 □「すくすく教室」と連携した 就学相談の充実 ■関係機関との連携による 「サポネット田村」運営の充実 ○サポネットファイルの活用 ○研修・啓発セミナー等の実施 	<p>○特別支援教育支援員21名を幼稚園、小・中学校に配置し、適切な支援に関する研修を実施することで児童生徒のニーズに応じた支援がきめ細かにできるようにした。</p> <p>○市保健課「すくすく教室」に指導主事を派遣し、保護者からの相談を受けたり就学に関する情報提供をしたりした。</p> <p>○田村市特別支援啓発セミナーを開催し、特別支援教育の進め方や支援の在り方についての研修を行った。</p> <p>○田村支援学校との連携のもと、インクルーシブ教育推進事業を活用し、適正な就学指導の在り方についての学校への指導と助言を行うことができた体制を整えることができた。</p>	<p>A 「特別支援協議会」に参加させていただき、関係者が一堂に会し、支援のケースについてなど詳細に話し合い、実践に向けて取り組まれておりますことに感心いたしました。</p> <p>普通学級での支援、児童生徒についても実情に合わせた取り組みが必要である。</p> <p>勉強についていけない生徒への支援だけでなく、クラスの集団からはみ出してしまふ生徒への支援もあり、助かっている。以前は暴れて授業にならなかったという話も聞いたが、生徒が落ち着いてクラスも落ち着きを取り戻したようだ。支援員の配置に感謝。</p>	A
	<p>(2) 個や学校のニーズに対応した教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> □学習機会の提供 <ul style="list-style-type: none"> ○小学生サマースクール(再) ○長期休業中等による自主学習指導支援 ○復興支援 田村っ子の元気を支援する事業 	<p>○小学生サマースクールでは、小学校5年生を対象に算数科の習熟度別指導を取り入れ、講師との温かい人間関係のもと、個に応じた指導を実施することで、夏季休業中の家庭学習への意欲付けを図った。(再掲)</p>	<p>A 各学校とも特色ある取り組みをしている。</p>	A
	<p>(3) 学校への適応指導の充実 (いじめ・不登校防止等への対策)</p> <ul style="list-style-type: none"> □適応指導の充実 <ul style="list-style-type: none"> ○学級生活満足度調査(Q-U調査)の実施と活用(小3~中3) ○小・小連携、小・中連携による交流事業 ○導入期(異校種の接続)指導の充実 ■いじめ、不登校への迅速で適切な対応 <ul style="list-style-type: none"> ○市いじめ防止等に関する条例に基づく体制の整備(いじめ問題対策委員会等) ○心の教室相談員の中学校配置と小学校派遣 ○OSC,SSW派遣事業の活用 ○「ほっとスペース」(ボランティアによるフリースクール)との連携 	<p>○学級生活満足度調査(Q-U検査)の実施は、児童生徒の心の状態を把握し、個に応じた支援ができ、いじめや不登校の未然防止に大いに役立っている。</p> <p>○生徒指導担当教員へ向け「いじめ・不登校対策研修会」を実施し、実践力の向上を図ることができた。</p> <p>○「第1回田村市いじめ防止対策協議会」を実施し、各関係機関との連携、情報共有の在り方を確認することができた。</p> <p>○学校への支援として、教育相談に対する支援を推進した。心の教室相談員、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの配置を積極的に行い、不登校児童生徒への支援の充実が図られた。(指標1-6B)</p>	<p>A いじめ、不登校防止について、真剣に取り組んでいることはすばらしい。</p> <p>調査を生かし日常の観察、何よりも対話を増やして対応できるように努力されたい。</p> <p>初期が大事。</p>	A
	<p>(4) 学校の危機管理体制の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> □アレルギー、感染症への対応 <ul style="list-style-type: none"> ○学校給食食物アレルギー対応体制の確立 ○感染症への対応体制の確立 □非常時情報伝達体制整備 <ul style="list-style-type: none"> ○緊急時メールシステム ○災害時対応マニュアルの整備と周知 	<p>○給食センターにおいて指導管理表に基づいて食物アレルギーへの対応を確実に進めており、事故「0」を継続している。対応マニュアルに添った対応について今後も確実に行っていく。</p> <p>○休校などの措置対応についてメールシステムによる緊急連絡体制の確立ができ、活用が図られている。</p> <p>○緊急時(Jアラート、大雪等)の備えをより一層充実させるため、各校・各園の災害対応マニュアルへを点検し、改善に向けた指導助言を行っていく。</p>	<p>B アレルギー感染症等への対応の配慮に感謝。</p> <p>自校給食でないので苦労もあると思うが、「食」の大切さについての指導をお願いしたい。</p>	A

S+: 目標を大幅に上回る成果をあげた S: 目標を上回る成果をあげた A: おおむね目標を達成した B: 業務に支障はないが、目標は下回った C: 目標を大幅に下回った

施 策	内部評価	外部評価
<p>1 公民館の活性化を図ります。</p> <p>(1) 学級講座の充実 ■市民のニーズを捉えた学級講座の企画 ○学級講座の評価と再検討 ○学習ニーズアンケート調査の実施と結果の共有 ○共同開催する学級講座の企画</p>	<p>○各公民館毎の事業内容や評価等の共有を行ったが、母体となる団体（老人会や婦人会）が組織されている地区については比較的活発に教室が開催されている。教室内容についても事前アンケートや運営委員会で検討を始めた公民館もあり参加者の要望を取り入れ実施されている。一方で一般市民への公募型の教室については参加者の確保について苦慮している。魅力的な教室開催の必要性もさることながら、公民館へ来るきっかけづくりを工夫する必要がある。 ○各学級教室毎の事後アンケートを実施しているが、結果の共有には至っていない。一般市民を対象とするニーズアンケート調査は実施できなかった。 ○本年度企画された共同開催事業はハイキング（滝根・船引）、青少年教室（大越・都路）それぞれ1回ずつであった。今後回数を増やすなどの検討をする。</p>	<p>B</p> <p>少ないスタッフで行事・事業・講座・貸館事業・そしてサークルの事務局、雑用など多様な仕事をこなしていることに敬意。</p> <p>学級講座もニーズに応じた学級も必要であるが、市民への啓蒙など必要課題、内容、開催曜日、時間等も考慮しなければならぬ。</p> <p>平日、日中の教室は、どうしても定年後の方、仕事をされていない方が中心となる。夜の時間帯にしたり、参加してもらいたい年代層がある程度しぼって教室を設定する必要があると思う。ハイキングは参加を楽しみにしている声を聞く。広報やFace bookなど広く募集し、当日の様子もいろいろな所で報告・お知らせしてほしい。</p> <p>何が要求されているのかを捉えることは難しいと思いますが運営の意見とともに、職員の発想力が必要と思う。</p> <p>地域を越えた事業については、更に増やす検討ができると思う。</p> <p>講座が命である。 市として足りないもの、必要なものを促せる。</p>
<p>2 生涯学習の充実</p> <p>(2) 公民館運営の活性化 □市民に愛される公民館づくり ○管理運営体制の検証 ○市民に愛される公民館の管理運営方法の検討</p>	<p>○都路・大越の行政局併設化、今後予定される滝根・船引の大規模改修、建替方針の検討に伴い、管理運営体制の抜本的な見直しが必要となってきており、民間委託や指定管理等を含め検討が始まっているが、明確な結論には至っていない。</p>	<p>B</p> <p>職員研修の機会が少ない。</p> <p>組織の改編の必要性 公民館一本化へ（ネット化）</p> <p>公民館の横のつながりを強化してほしい。市民はどこの公民館の教室や事業にも参加できるはずだが、旧町村を超えての参加は少ないのではないかと思う。お互いの教室や事業について掲示板などで共有するなどできるのではないか。そのためには企画がかぶったり（内容や日程）しないよう担当者の方の事前の話合いなどが大切になってくると思う。 公民館の会議室など借りるとき、1週間前に申し込まないと使えない。1週間を切ったの申し込みでも空いていれば使えるようにしてもよいのではないかと思う 11月19日に船引と滝根の太極拳教室の交流会に参加した。交流することにより、いつもの活動にはずみがつき活性化するので、似たような教室との交流会の企画も有意義だったと思った。 趣味の教室は、家庭や仕事とは違う。第3のコミュニティーで、人生を豊かにすると思う。管理運営は厳しいと思うが、市民に寄り添った検討をしてほしい。</p> <p>全市の体制づくりに期待します。</p>

2 放課後子ども教室事業を推進します。

(1) 放課後子ども教室推進

- 放課後子ども教室の円滑な運営
 - 実施校の継続
- コーディネーター及び指導員の育成と確保
 - コーディネーターの育成
 - 指導員の育成
 - 指導員の確保
- 放課後子ども教室の周知及び広報
 - 教室日より、めだかの学校通信の発行

○継続で実施している9校で概ね円滑に運営できた。
 ○県中地区研修会・県実践研修会・県社会教育研修会に積極的に参加できた。市が企画開催したコーディネーター・指導者研修会には8名が参加し、活発な意見交換が図られた。
 ○随時指導員の募集を市のホームページや広報などで実施している。
 ○めだかの学校通信は3月に発行予定。各放課後子ども教室だよりの発行は7校で実施。

A コーディネーター、指導員のおかげで事故なく有意義な活動がみられた。
 A 学校が統合され家に帰っても近所に遊べる子供がいけない所も少なくない。安心して子供が遊べる場所ができて保護者も助かっている。
 指導員の募集は、その地区の幼稚園、小学校に募集のプリントを配るようにしたらいのでは？
 ただどんな人でも良いわけではないので、コーディネーターの方などが面談してほしい。
 指導員はいろいろな年代・男・女がいるよと思う。
 指導員の確保は難しいと思うが、更に理解を深めていただきながら継続を望む。

3 学校支援地域本部事業の推進を図ります。

(1) 学校支援地域本部事業の円滑な実施

- 学校支援地域本部事業の推進
 - 学校支援地域本部会議及び地域教育協議会の開催
- 地域の人材活用体制の整備
 - コーディネーターの育成
 - ボランティアの確保と有効活用、資質向上
- 学校支援地域本部事業の周知及び広報
 - 学校支援地域本部だよりの発行

○継続の6中学校区は予定通り実施できた。未実施であった都路中学校区について、29年4月より事業を開始することができた。
 ○情報交換会を定期的に実施。県実践研修会への積極的な参加ができた。
 ○中学校区をまたいだボランティアの活用を進めているが、共有化には至っていないものの、コーディネーター間の情報交換により、広域的な活用は図られた。
 ○本部日より市ホームページによりボランティアを募集し年度当初328名→416名と88名増加した。
 ○昨年同様に学校支援地域本部だよりの発行予定。

A 田村市全中学校取り組むことができたことが素晴らしい。
 A ボランティアの献身的な奉仕とコーディネーターの努力で多様な活動がみられるようになった。
 学校との共同化を進めてほしい。

4 図書館の機能を充実します。

(1) 図書館の機能充実

- 利用促進に向けた図書館資料及び機能の充実
 - ニーズに合わせた蔵書の確保
 - 貸出予約の利便化
 - 年代別コーナーの設置
 - 自主事業の充実
 - 図書ボランティアの育成
- 子どもの強く生きぬく力を育むための読書活動の推進
 - 第二次田村市子ども読書活動推進計画の実践
 - 子どもが利用しやすい館内環境の整備
 - 学習支援機能の充実
 - 子どもの読書活動にかかわる関係者の資質向上
- 図書館事業の周知
 - 市民等への広報

○資料の充実は、年代別図書コーナーの整備とも関連し、子ども読書プランの施策や蔵書構成、リクエスト等に基づいて進めた。
 ○貸出予約システム導入に向け検討中。大規模システム改修・更新が必要で、新施設移行時に導入予定。
 ○新規自主事業として、イベントと講座を実施。
 「おはなしフェスタ」は、絵本作家きむらゆういちさんの講演と五つの分科会を実施し市内外から350名以上の参加で盛況だった。
 「こども語り手養成講座」は市内の伝承の語り手が講師となり、7人のこども語り手が誕生。また、社会福祉課、保健課との連携で「ブックスタート事業」を開始。読書への啓蒙と図書館の利用拡大にもつながった。
 ○図書館や学校支援のおはなし会を読み聞かせボランティアと職員が協力して実施し依頼先も増加。ブックトークは、今年度から対象校を拡大し、田村市全域で実施。
 ○館内環境整備は、児童コーナーの通路が狭く危険だったため、棚の配置換えて通路を広げ、棚の高さを低くし安全と使いやすさを確保。
 ○学習支援では、団体貸出も活発に利用され、図書館訪問にも積極的に対応して、図書館を理解し親しみを持ってもらう機会とした。
 ○子どもの読書活動にかかわる人材育成では、ボランティア連絡会や「おはなしフェスタ」の実施で、スキルアップやモチベーション向上に多様な支援が実現できた。
 ○広報活動は、例年通り実施できた。

A 子ども図書ボランティア育成や図書活動推進など子どもに読書の機会を広げる工夫がされており、感謝してます。
 A 読み聞かせボランティアの活動素晴らしい。
 一般市民の活用を伸ばす工夫を。
 教育実践報告会で、先生が関連の図書を教室に置く努力をされていたがそもそも本に興味がないとなかなか手が出ない。そういった意味でも「ブックスタート事業」は小さいうちから本を通じて楽しい体験ができ、『知る』事を楽しめる子供が増える良い事業だと思う。子供に本をプレゼントするときに親向けにも本の紹介があるとうれしいと思う。(子育て関連だけでなく、雑誌や話題の本など)図書館は子供を連れて行ける数少ない場所なので、利用者がもっと増えればよいと思う。

3 芸術文化活動の推進	<p>1 芸術文化活動の推進を図ります。</p> <p>(1) 多様な芸術文化活動への支援 <input type="checkbox"/> 芸術文化活動への支援 <input type="checkbox"/> 芸術文化団体への支援 <input type="checkbox"/> 各地区文化祭・芸能祭への支援</p> <p>(2) 文化センターを活用した芸術文化の提供 <input type="checkbox"/> 質の高い自主文化事業等の実施 <input type="checkbox"/> 文化センター運営委員会の開催 <input type="checkbox"/> 小中学校芸術鑑賞教室の開催 <input type="checkbox"/> 市民による身近な芸術文化の提供 <input type="checkbox"/> 市民等への広報</p>	<p>○田村市文化協会の作品展示会と芸能発表会の開催を支援し、作品展示会は11団体364点が展示され約500名が来場し、芸能発表会は58団体70演目が発表がされ約650名が来場した。 ○各地区の文化祭・芸能祭実行委員会へ事業補助金を交付することによって、例年どおり開催された。</p> <p>○小学生芸術鑑賞教室（対象：小学5・6年生）は「影絵劇 注文の多い料理店&影絵教室」、中学生芸術鑑賞教室（対象：中学2年生）は「能楽鑑賞会」で、それぞれおおむね好評であった。小中学生が本物の芸術に触れる機会はそう多くないので、選定する内容に留意しながら継続していく。 ○自主文化事業では、昨年度の来場者の少なさを反省し、予定されていた演歌コンサート等を見合わせ、事業見直し・再検討することとした。上半期にアンケートによるニーズ調査を実施。2・3月に若者向けダンス・和楽器ロックコンサートを企画。次年度もニーズが多かったお笑いライブを計画。</p>	<p>A 文化団体の構成員の高齢化、発表の場の拡大など考えていかなければならないことが多い。</p> <p>芸術鑑賞教室は子供たちが本物を見る良い機会だと思う。 続けていってほしい。</p> <p>地域の文化祭について、小中学生数の減に伴い作品数が少なくなる傾向にはなるとはありますが、一般への周知・参加に期待します。</p> <p>B 本物にふれる芸術鑑賞教室は継続を望みます。</p> <p>自主文化事業の鑑賞会員の増加内容等運営委員会での検討を願います。 2月18日、THE BLOCK PARTY in TAMURAは、今までとは違う企画だったと思った。10代の子供たちがプロのダンスを見たりプロに混じってパフォーマンスできたり、良い経験ができたと思う。多くの子供に参加してもらいたいので、各学校の試験日程など考慮して日程を設定してほしい。 和楽器ロックコンサートも行ってみたいと思った。</p> <p>自主事業については、外部評価委員に通知してほしい。</p>	<p>B</p> <p>A</p>
	4 文化財の保護と継承	<p>1 文化財の保護と継承を推進します。</p> <p>(1) 地域に残された文化財の保存と継承 ■文化財の保存と継承 <input type="checkbox"/> 文化財保護審議会の開催と県文化財保護指導者研修会への参加 <input type="checkbox"/> 指定文化財の防災訓練と防火査察の実施 <input type="checkbox"/> 指定文化財の周知 <input type="checkbox"/> 民俗文化の保存と伝統芸能の継承 <input type="checkbox"/> 田村市史シリーズの継続発行</p> <p>(2) 地域の歴史を学び親しめる施設の整備 <input type="checkbox"/> 歴史民俗資料館の活用と文化財資料館の整備 <input type="checkbox"/> 歴史民俗資料館の活用促進 <input type="checkbox"/> 文化財資料館の整備</p>	<p>○文化財保護審議会、県文化財保護指導者研修会は予定通り実施。 ○国指定の堂山王子神社での防災訓練と15カ所の指定建造物への防火査察を例年どおり実施。 ○指定文化財標柱は「長源寺のいちよう」ほか2カ所、説明板は「旧古道小学校の笠松」ほか1カ所に設置。 ○民俗芸能記録映像のデジタル化は「船引町堀越の太々神楽」、「都路町 岩井沢の三匹獅子舞」、「大越町 入三洞の三匹獅子舞」の3件について実施。 ○市史9は遺跡をテーマに年度内発行を予定したが、本年大規模発掘調査が計画されたため、それも含めたものを平成31年度に発行する事とした。</p> <p>○歴史民俗資料館の自主事業は「お茶会」、「正月飾りづくり・もちつき」、「団子さし」の3事業を継続実施。地域の昔ながら行事を掘り起こし、新たな事業を検討する。 ○既存施設を有効活用し文化財資料館として利用する方向で検討を進めている。</p>	<p>A 市の文化財、古文書公文書等の保管と鑑賞や調べ物をする場所の確保。</p> <p>文化財や文化を今後引き継ぐ若い人の確保・育成が急務。</p> <p>2月11日「今ここに生きる～田村の絆」は来場者が伝統芸能を楽しみに、地域の文化を誇りに思える良い企画だったと思う。 出演した団体も笑ってもらったり、興味を持って見てもらうことで、自信が持てたようだ。 広報でコーナーを作って通年で紹介したり団員を募集したりFace Bookで活動を紹介したり、市でももっとバックアップしてほしい。</p> <p>デジタル化について、努力されたと感じる。</p> <p>A 楽しそうな自主事業なのでもっと周知してほしい。インターネットで調べたが、いつ行ったのかわからなかった。新たな事業を検討するのことで楽しみ。Face Bookなど複数のメディアでお知らせし、当日の様子もアップして盛り上げてほしい。</p> <p>新たな事業に期待するとともに、既存施設の利用検討を進めてほしい。</p> <p>広報のしかたが大切。</p>

5 ス ポ ー ツ レ ク リ エ ー シ ョ ン 活 動 の 推 進	<p>1 スポーツ振興の推進を図ります。</p> <p>(1) 幅広い年代が親しめるスポーツ・レクリエーション活動の推進</p> <p>■運動公園内の施設によるスポーツ交流人口の拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ○県内外からの高校、大学の合宿誘致 ○県レベル各種大会の誘致 ○施設のPR ○クロスカントリーコースの利活用 <p>□田村富士ロードレース大会への参加者の拡大と推進</p> <p>○学校・スポーツ団体との連携による参加者の拡大</p> <p>□ふくしま駅伝の参加並びに記録への挑戦</p> <ul style="list-style-type: none"> ○年間を通した質の高い練習、スタッフの確保 ○田村市チーム運営の委託契約 <p>(2) スポーツ・レクリエーションを通じた交流の推進</p> <p>□小中学生を対象としたスポーツ大会・講習会等の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ソフトボール大会、駅伝大会等の開催 ○スポーツ教室の開催 <p>(3) 活動を支える充実した指導体制の確立</p> <p>□指導者対象の研修会、講習会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ○スポーツ推進員研修会・講習会 ○スポーツ講演会の開催 	<p>○県外高校等の合宿での利用は1校で2回の利用があり、県レベル各種大会の誘致は総合体育館14大会、陸上競技場7大会であった。総合体育館の利用は市内のスポーツ団体の利用が多いので、県レベルの大会の誘致は総合体育館以外の体育施設を含めた利用調整をさらに検討する必要がある。また、ホームページでの施設のPRや市内の宿泊施設と連携を深め、大学や企業の合宿誘致活動に取り組んでいく必要がある。</p> <p>○クロスカントリーコースの利活用については「たむらクロスカントリー大会」の開催や陸上競技場を利用している団体等がトレーニング及びふくしま駅伝の強化練習として利用している。</p> <p>○田村富士ロードレース大会への参加者の拡大と推進は、各地で同様の大会やスポーツ少年団の各種大会が開催されていることもあり、参加者を呼び込むため、近隣のロードレース大会と連携を取り、スタンプラリーを行うなど、何らかの工夫が必要になってきている。</p> <p>○ふくしま駅伝については田村市チーム運営を田村市陸上競技協会へ委託し、昨年度から田村市陸上競技協会が中心となって、クロスカントリーコースを利用し陸上教室を開催して若手アスリートの育成に貢献している。</p> <p>○あぶくま洞大多丸旗争奪児童ソフトボール大会、ビートル駅伝大会等を開催し、市内外から多くのチームが参加され、大会を盛り上げていた。また、今年度は2年に1回開催される中野区とのスポーツ交流会が軟式野球とバドルテニス競技を行い、両参加者の親密な交流が出来た。</p> <p>○総合型地域スポーツクラブにおいて、活動の中心となる指導者の高齢化が目立ち、若手指導者の育成が課題となっている。</p> <p>○スポーツ推進委員の研修会として、県体育協会のスポーツ医事・トレーニング相談事業を活用し、「体幹トレーニング教室」を開催してスポーツ推進委員としての資質の向上を図った。</p> <p>○スポーツ講演会の開催については、スケジュールが合わず開催に至らなかった。</p>	<p>A</p> <p>旧船引体育館の一般市民の利用者が早く復活することを望んでいる。 また、船引小学校でも体育や行事開催で体育館が必要であるので早急にほしい。</p> <p>スポーツ少年団の活躍は、めざましいものがある。</p> <p>市民参加のスポーツ・レクの奨励に力を入れたい。特に青年向けに</p> <p>せっかくのすばらしい施設、コースなので多くの人に利用してもらえよう引き続き誘致活動・PRしてほしい。</p> <p>他のイベントとかち合わないよう、また、中学校、高校の試験と重ならないよう日程の調整を。学校単位でのさんかだと生徒も参加しやすい。</p> <p>地域によっては人口減等から体育施設の利用が少ないようにも見えますが、特色ある大会の開催等により季節差はあるものの積極的な施設利用がある。 職員の努力に感謝。</p>	A
		<p>○あぶくま洞大多丸旗争奪児童ソフトボール大会、ビートル駅伝大会等を開催し、市内外から多くのチームが参加され、大会を盛り上げていた。また、今年度は2年に1回開催される中野区とのスポーツ交流会が軟式野球とバドルテニス競技を行い、両参加者の親密な交流が出来た。</p> <p>○総合型地域スポーツクラブにおいて、活動の中心となる指導者の高齢化が目立ち、若手指導者の育成が課題となっている。</p>	<p>A</p> <p>船引小学校の箭内君の活躍は子どもたちにも大人にも大きな力や元気をいただいた。</p> <p>総合型地域スポーツクラブに対する行政側の指導をいただき活発化させたい。</p> <p>市外からの参加者も多く盛り上がっている。せっかくなので市内の観光・交流がもっと行われるとよいと思う。</p> <p>バドルテニスが市民団体が継続している。</p>	A
		<p>○スポーツ推進委員の研修会として、県体育協会のスポーツ医事・トレーニング相談事業を活用し、「体幹トレーニング教室」を開催してスポーツ推進委員としての資質の向上を図った。</p> <p>○スポーツ講演会の開催については、スケジュールが合わず開催に至らなかった。</p>	<p>B</p> <p>スポーツ指導員の活用、市のスポーツ指導者の育成を望む。</p> <p>スポーツ推進委員の地域での活動内容が異なっている。 地域の状況に合う活動を継続していただきたい。</p>	B

S+: 目標を大幅に上回る成果をあげた S: 目標を上回る成果をあげた A: おおむね目標を達成した B: 業務に支障はないが、目標は下回った C: 目標を大幅に下回った

施策	内部評価		外部評価	
<p>教育委員会の活性化を図ります。</p> <p>(1) 開かれた教育委員会 □教育委員会の透明性を高める取組 ○所管事務の調査、施設等の視察 ○意見交換会の開催 ○会議運営の工夫、内容の公表</p> <p>(2) 教育委員会施策の重点化 □教育推進プログラムの重点化と自己評価 ○ダイジェスト版の策定 ○施策の自己評価</p> <p>教育行政の円滑な推進と効率的運営</p> <p>(3) 外部評価と公表 □外部評価委員による評価及び公表 ○外部評価委員会の定期開催 ○評価結果の議会報告とホームページ掲載</p>	<p>○施設訪問2回 ①H29.9.29(金)福島県立たむら支援学校春山校を訪問し、支援学校の概要及び現状を把握 ②H29.11.20(月)田村市立都路小学校訪問により、統合後の児童等の状況把握及び田村市学校給食センターを訪問し、施設概要の把握と給食試食による確認</p> <p>○会議の日程をホームページ掲載</p> <p>○田村市教育大綱の各施策の重点目標をダイジェスト版とし策定</p> <p>○各施策の内部評価として、自己評価の実施</p> <p>○外部評価委員会は年2回開催、外部評価委員は、各種行事等に出席し評価を実施</p> <p>○平成28年度点検評価報告書を議会へ提出及び市のホームページへ評価報告書を掲載</p>	<p>A</p> <p>A</p> <p>A</p>	<p>教育長不在の中、事故なく教育推進できた事務局の皆さんに敬意を表する。</p> <p>たむら支援学校が地域の中でいかしていけることに期待する。</p> <p>各種会議の中で出された課題について、教育委員会に出してほしい。 課題が見えるようにしてほしい。</p> <p>課題を明確にした教育推進プログラムが構造化、わかりやすく進められている。</p> <p>教育推進プログラムのダイジェスト版は、一般向けにもっとポイントを絞り文字を少なく図解してほしい。 プログラムのお知らせではなく、家族や地域に協力してもらえものを。</p> <p>〈例えば〉  こんなことを手伝ってほしい</p> <p>〈家庭・地域の方へ協力をお願い〉</p> <p>できそうな事からいくつか</p> <p>各種行事に参加させていただき、真剣に取り組まれている多くの方々にふれることができたことに感謝する。</p> <p>各職員の方が工夫しながら取り組んでいると思う。各部署・施策の中心となる、または力を入れている見てほしいイベントやプログラムを年度初めに知らせしてほしい。</p>	<p>A</p> <p>A</p> <p>A</p>

教育環境の整備・充実を進めます。

(1)田村市長期総合計画に基づく校舎

- 教育活動の場にふさわしい環境の整備
 - 要望や状況をふまえた計画的な修繕
- 施設の耐震化の推進
 - 校舎及び体育館の計画的な耐震化工事

(2)学校の安全管理と事故防止

- 児童生徒の安全な学校生活のための環境整備
 - 安全点検後の迅速な修繕
 - 防火管理体制の評価
 - 通学路の点検及び危険箇所への対応

(3)児童生徒の通学支援

- 児童生徒の通学支援
 - 遠距離通学児童生徒への通学支援
 - 自転車通学への通学支援

教育予算を効果的・効率的に執行します。

(1)教育予算の効果的運用

- 田村市財政計画をふまえた効率的な予算執行
 - 教育大綱に基づく重点事業の設定
 - 予算編成ヒアリングの実施

人材育成を推進します。

(1)高校生・大学生の就学支援

- 奨学制度の効果的な運営
 - 奨学制度の周知

(2)高校生の海外留学支援

- 海外留学支援制度の周知
 - 海外留学支援制度の周知

○常葉小学校トイレ洋式化工事、滝根中学校高架水槽改修工事、常葉中学校舗装工事、大越中学校進入路拡幅工事をはじめ、緊急性の高い順に計画的に工事や修繕を実施

○滝根中学校校舎耐震補強事業
○船引南小学校屋内運動場耐震補強事業設計委託
○滝根幼稚園改築事業設計等委託

○児童生徒の登下校時の通学路の交通事故防止並びに安全対策のため、「田村市通学路安全推進会議」の開催、関係機関と合同での通学路の危険箇所の点検及び解消に向けた協議

○安全対策として看板の設置

○学校からの通学路危険箇所点検結果による要望の取りまとめ

○スクールバスへの試乗による安全確認

○各幼・小・中に防火管理者を設置し、防火管理体制を確立(新規管理者には、講習会受講)

○市の補助金交付要綱に基づく遠距離通学児童生徒へ通学にかかる補助

○自転車通学者へヘルメット購入補助の実施

○移中学校の統合に伴い、通学バス2台購入
○移地区から船引中学校への通学バス運行経路の試走確認

○教育大綱の重点施策に基づく事業の計画、予算の執行

○各幼・小・中に対する予算編成に向けたヒアリングの実施及び現地確認

○奨学金給付制度の創設

○広報、ホームページ掲載、市内各中学校、市の高校生が在籍する高校への周知依頼

○広報、ホームページ掲載、中学生海外派遣研修報告会での周知

A 厳しい状況下で施設、設備、教材の整備等きめ細やかな対応をされている。

計画的に環境整備の継続を望む。

A 登下校の雪道の対応に配慮されたこと、先生方の努力に感謝申し上げたい。

通学路の安全確保を足と目で確認することも必要。

何が起こるかわからない社会。アンテナを高く多くの目で見て、対応策を定期的に確認願う。

スクールバスでの通学が多くなる一方で降車時の安全運行管理教育を継続してほしい。

A スクールバス通学が多くなっておりませんが任せっきりでなく、時々状況把握する必要もあるように思う。

A 効果的に活用されているか、状況把握することが大事。

S 毎年早めに国・県・市の内容を知らせ、積極的に活用するようにする。

ある日突然必要になることもあると思うので、本当に必要な人に行き届くように、柔軟に対応してほしい。

A

<p>教育行政の円滑な推進と効率的運営</p>	<p>教育効果を高めるための学校規模の適正化を進めます。</p> <p>(1)少子化に伴う複式学級解消に向けた学校規模の適正化推進</p> <p>■学校規模の適正化推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各地域の現状把握 	<ul style="list-style-type: none"> ○今後の児童生徒数の推計 ○移中学校統合に向けた説明会を実施 ○統合決定後は、閉校に向けた準備 ○閉校式開催 ○引越し作業 ○PTA、地区住民等に対し、現状等の説明 西向小学校・関本小学校・常葉小学校 芦沢小学校 	<p>S</p>	<p>小規模校だけに目が移りやすいが、船引小・中の大規模校の課題も多く、安心・安全の教育環境づくりに留意していただきたい。</p> <p>児童・生徒数の急激な変動がみられる時であるが、早めに教育的配慮をして計画的に統廃合を進めたい。</p> <p>目標を立てることが難しいと思われる。</p>	<p>S</p>
-------------------------	--	---	----------	--	----------

～ V 結びに ～

VI 結びに

平成27年4月に「田村市教育大綱」を策定し、基本方針である「未来を担う人づくり」に向けて、次の6つの重点施策を掲げました。

- 1 学校教育の充実（豊かな人間性、社会性を持ち、21世紀をたくましく生きる園児・児童・生徒の育成）
- 2 生涯学習の充実（豊かな人間性を育む生涯学習の振興）
- 3 芸術文化活動の推進（豊かな人間性を育む文化の振興）
- 4 文化財の保護と継承
- 5 スポーツ・レクリエーション活動の推進（元気で活力をはぐくみ、心を通うおす健康・体育・スポーツの振興）
- 6 教育行政の円滑な推進と効率的運営

この重点施策を実現するため、担当課ごとに「教育振興推進プログラム」を作成し、具体的な事業内容を設定して教育振興の充実に取り組んでおります。

また、田村市教育委員会では、「地域が育て地域で育つ市民参加の教育」を実現するため、事務の管理及び執行の状況を自ら点検評価し、その結果を市民の皆さんに公表することを通して、より効果的な行政を推進してまいりたいと考えております。

教育の目的は、「人格の完成」や「生きる力の育成」を目指すものであり、その成果を数値で示すことは難しい面もあり、事業実施の結果や予算の費用対効果が直ちに表れるものばかりではありません。

しかしながら、適切な指標をあげ、点検・評価及び改善しながら、課題解決に向けて実践することは不可欠であります。数値に表れにくい子どもの変容や意欲・姿勢についても可能な限り取り上げ、継続的に調査・考察・分析を行い、報告書の作成に努めました。

さらに、今回の点検・評価にあたっては、その評価の客観性を確保する観点から、外部評価委員として次の学識経験者に依頼し、ご意見をいただきました。

柳 沼 照 栄	元田村市教育委員会委員長
蒲 生 和 世	元田村市図書館協議会委員
赤石沢 晶	元都路公民館長

各学校の教育活動の充実と教育委員会所管の事務事業の推進は、一体のものであります。田村市教育委員会といたしましては、今回、外部評価委員からいただきました評価や意見を教育施策に生かしてまいります。

更には、日頃より保護者や地域の方々からお寄せいただいている評価やご意見を大切にし、今後とも各学校等における教育活動の充実のために、教育施策の点検・評価を実施し、適切な手立てを講じながら、効果的な教育行政を推進してまいります。